

# 専門部会等活動報告書

令和4年度（2022年度）

明石市地域自立支援協議会

## 目 次

1. 運営会議（全4回） .....	1
2. 相談支援連絡会（全11回） .....	31
3. サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者連絡会（全5回） .....	36
4. 暮らし部会 .....	40
① ハートふるあかし（全5回） .....	42
② ヘルパーのつどい（全4回） .....	43
③ すまいの会（全2回） .....	44
④ 生活介護事業者連絡会（全1回） .....	45
⑤ 福祉学習推進プロジェクト（全6回） .....	46
5. しごと部会 .....	48
① B型事業所ネットワーク（全3回） .....	50
② 就労移行WEB見学会（プロジェクト）（全5回） .....	52
③ チャレンジウィーク（プロジェクト）（全2回） .....	53
6. こども部会 .....	55
① 児童通所等サービス事業者連絡会（全6回） .....	57
② 10,000人メッセージプロジェクト .....	59
③ 障害福祉サービスの提供内容に関する情報発信プロジェクト .....	59
リポート .....	61

## 1. 運営会議（全4回）

“明石市障害者計画”および“明石市障害福祉計画・明石市障害児福祉計画”の基本理念を踏まえて、専門部会（くらし・しごと・こども）および相談支援連絡会とサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者等連絡会を設置して、協議会に参画する地域の関係機関の連携の緊密化に努めたほか、障害福祉サービスの提供等の実務を通じて把握した①支援体制に関する課題、②既存の制度やサービスだけでは解決が困難な事象、③繰り返し起きている類似の問題等をテーマ別に整理・集約し、協議・検討するとともに、優先的に解決すべき課題を選定したうえで全体会へ報告しました。

### （1）協議内容等

	開催日	会場	参加者
第1回	6月17日（金）	市民会館第3・4会議室	15名
	令和3年度専門部会等活動報告ならびに令和4年度（2022年度）専門部会等活動計画（案）および専門部会委員候補者（案）について全会一致で承認した。		
第2回	9月2日（金）	勤労福祉会館第1講習室	16名
	<p>1. グループホームを知る機会の拡充と体験利用の運用改善について（くらし）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホームの空きがない、支給決定がないと体験できないのは全国的な課題である。</li> <li>・稲美町では2年前から地域生活支援拠点の中で日中支援型のグループホーム（短期入所併設）を活用して取り組んでいる。</li> <li>・精神科病院の長期入院者はグループホームのイメージがわからない。コロナ前は食事会や見学会を実施、コロナ禍では食事なしの交流会、世話人や利用者との交流により、安心できる場だと感じてもらうことが必要と感じている。</li> <li>・1回の見学では決心できない。本人が怖いと感じるのは無理もないことだと思う。</li> <li>・障害があっても18才になれば成人として自立するものという考えが当たり前になればよい。</li> <li>・グループホームを知ってもらう方法として、内覧会や、写真や動画を用いてはどうか。</li> <li>・どこで死ぬのかについて、考えることは避けられない。いろんな住まいの選択肢があってしかるべき。</li> <li>・相談支援連絡会、サービス管理責任者等連絡会とも一緒に協議していくことが必要な課題だと考える。</li> <li>・一般市民はグループホームのことを知らない。グループホームを知ってもらう機会を増やす必要がある。</li> <li>・グループホームか入所施設しかないという選択はどうか。在宅生活の維持にはヘルパーが必須だが人材不足は深刻である。</li> </ul> <p><b>障害福祉課</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明石市の地域生活支援拠点は面的整備で、市内の既存資源の活用という形。体験機会については課題である。</li> </ul>		

	<p>・グループホームの体験利用の支給決定については、本利用前提でなければ支給決定をしないというものではないが、体験利用先が概ね選定できている状況での申請をお願いしたい。</p>		
	12月9日（金）	勤労福祉会館第1講習室	16名
第3回	<p><b>（報告事項）</b></p> <p><b>1. 福祉学習推進プロジェクト（社会福祉協議会・事務局）</b></p> <p>・10月29日に大久保小地区社協を対象に精神障害に対する理解を促進するための福祉学習を開催した。参加者は25名で年齢層は40代以下～80代と幅広かった。アンケートではおおむね好評であった。年明けに藤江小学校の親子スクールで“こども Ver”の福祉学習を予定している。今後、障害福祉サービス事業所のメンタルヘルス対策を目的とした開催も検討していく。</p> <p><b>2. サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者連絡会（事務局）</b></p> <p>・11月18日（金）に第1回の連絡会を開催して会場には100名ほどが参集した。アンケートでは、意見交換会の満足度が高く、個別支援計画の作成やサービス提供職員への技術指導や助言について情報共有がしたいとの希望があった。また、同じサービス種別のサビ管・児発管同士での情報共有を希望する者が多く、専門部会やワーキング活動があまり認識されていない印象がある。また、参加者のうち25名が当該連絡会の運営に関わりたいと希望している。</p> <p><b>（協議事項）</b></p> <p><b>1. 「明石市移動支援ガイドライン」への疑義照会（相談支援連絡会）</b></p> <p>・聴覚障害の4歳児で通園にかかる移動支援を障害福祉課に母が相談したが、「一時的利用で3か月が基本になり、長い期間利用が想定される」という理由で断られた。障害があってもなくても一人の人として充実した人生を送るために、障壁があることが問題。親が働くのが当たり前の時代。親が当たり前に通学通園の付き添いをしなければならないという考えは間違っている。財源の問題もあると思うが、その人一人の生活をきちんと確保することに立ち戻ることが必要ではないか。</p> <p>・一般の人でもそれを当たり前に行っていることができない人に対して支援する施策であるべき。</p> <p>・不登校の問題にもつながっている。付き添いが無いために学校に行けない、保護者が休みの日のみ登校するというケースがあり、そこに付き添える支援があれば登校につながる可能性がある。ボランティアに依頼して通学支援してもらっているケースもある。</p> <p>・身体障害者は移動支援の利用に制限がある。障害者全員が利用できることが基本だと考える。障害があることで制限がかかることは人権的にも問題があるのではないか。</p> <p>・家族の高齢化による送迎の困難さ。ショートステイの利用の際の家族送迎が難しくなり、ショートを断念せざるを得ないケースがあり、本人にとってよりよい生活や選択ができなくなるのは残念である。</p> <p>・有償福祉活動などインフォーマルな支援の検討も大切だと感じている。</p> <p>・移動支援は平成15年に制度化されたが、20年が経過して時代も変わってきている。合理的配慮や権利条約の対日勧告などを踏まううえで「移動」の支援について</p>		

て考える必要がある。

・支援調整をしたことで良かった事例も挙げることで見えてくることがあるのではないかと。手立てを具体的に検討する議論がしたい。この場での議論で終わりではなく、障害福祉課でも検討を依頼したい。

### 障害福祉課

・現状のニーズに対してしっかりカバーできていないことは認識している。ある程度の「原則」を設けて、原則で対応できない事例に対して支援調整で対応している。

・今後も状況が変わらないという方についての支援調整については、それが10年後20年後に同じ状況とはいえないので、定期的に支援調整報告書の提出を求める。

・事業所の送迎がない場合、なぜ事業所に送迎がないのか、その事業所が送迎できるようになるにはどうしたらいいのかという視点も必要ではないか。

・財源の問題で、使いやすくして利用できる枠を広げることによって、報酬単価が下がる可能性もある。

## 2. チャレンジウィークの施策化に向けて（しごと）

・マクドナルドでチャレンジウィークに参加した利用者は姿勢や気持ちが前向きに変わった印象があり、同時に職員も認識の変化があった。

・チャレンジウィークでは、B型事業所ではできない経験ができる。実際に参加した利用者の変化や参加するメリットを事業所職員へ周知することが必要ではないか。

・企業から「B型にはどんな人がいるのか」という質問も受けており、相互理解にもつながる。

・就労移行やA型の職員にもこの取り組みを知ってもらうことでチャレンジウィークが活性化して、マンパワー不足の解消にもつながるのではないかと。

・地域貢献的なメリットだけでなく、謝礼があることは重要。チャレンジウィークの施策化を考えるなら財源の問題がある。福祉の観点のみでなく、企業側が人員を割くということに対してのコストにも着目すべき。

・好事例を紹介するパンフレットやツールを作りアピールしてはどうか。自立支援協議会のホームページに協力企業の名前を挙げてはどうか。

・雇用支援連絡会にて、中小事業主に対する「もにす認定制度」の紹介があった。認定のメリットは、企業イメージの向上と説明があった。チャレンジウィークについても、企業イメージのアップにつながるのではないかと。

3月3日（金）

勤労福祉会館第1講習室

16名

### （報告事項）

第4回

## 1. 就労移行WEB見学会（しごと）

・8か所の就労移行支援事業所が情報を発信した。42名の参加者があり、その内訳は、就労継続支援B型事業所15名、相談支援事業所4名、就労移行事業所13名、教育機関7名、行政2名、その他（あくど）1名であった。

・実施後のアンケートでは、就労継続支援A型事業所や企業、また企業で働く当事者の話を聴きたいという声があった。次年度の検討に繋げたい。

## 2. 東播磨圏域3市2町自立支援協議会連絡会（圏域Co・各部部长）

- ・明石市の協議会活動は他市町の参考になる内容だった。
- ・共通して人材不足の問題があった。利用者の支援に直結する問題で、一つの事業所や協議会だけでは解決できない。
- ・他市のしごと部会の活動があまり報告なかった。身近に就労を感じてもらう機会が必要と感じた。
- ・少数の障害（医ケア・視覚・聴覚障害）の行き場について、一市町で解決することは難しいので、圏域で取り組めたらと言う意見もあった。
- ・人材育成（特にヘルパー）、特別な支援が必要な方（医ケア・行動障害）への支援の充実について、圏域や県で検討を希望する声があった。

### （協議事項）

#### 1. 障害福祉サービスの提供内容に関する情報発信のあり方について（こども）

- ・児童だけでなく成人のサービスについても検討してはどうか。
- ・学齢期、特別支援学校在籍者の不安をどう解消するか。就労継続支援 B 型が安住の場所でいいのかという思いがある。働く場の情報提供も必要ではないか。
- ・どのような資源があって、生活にどのように活用できるのかという情報が重要である。ここで調べたらわかるというツールづくりが必要である。
- ・必要な情報をどれだけ利用者本人に届けられるかは相談員の力量に左右されている現状がある。そうではなく、一定の情報が確保できることが必要である。
- ・事業所一覧やワムネットでは情報が少なく、保護者が欲しい情報が不足している。写真や、事業所の理念等の発信があれば、保護者は安心するのではないか。
- ・高砂ユニナビは、事業所の協力を課題がある。
- ・情報のアクセスは支援のスタートにすぎない。
- ・一人の支援者の知識やネットワークに左右されず誰でも情報が収集できるデータベースが必要である。
- ・低年齢の保護者からの声として、ライフステージを通じた情報が得られるということも保護者の支えになると聞いている。
- ・食ベログのような口コミがあるともっとわかりやすくなるのではないか。
- ・障害があると分かった時、将来を見据えたライフステージを通じた情報発信が必要となる。
- ・障害が分かった時の不安を抱えた親が、明石ではどうしたらいいのかという入口の情報が重要ではないか。
- ・先日インクルーシブの明石講演に行ったが、障害の方の参加が無かった。一般の方の生活の中に障害の方の生活のことが一切ないことを痛感した。
- ・報告書の中にプロジェクトメンバーから、事業所側として、情報発信の必要性を高く感じていなかったとの言葉があった。事業所側も情報発信の必要性を感じてもらえる機会になればいい。
- ・予算化にはさらなる検討が必要である。

#### 2. 全体会における各専門部会の活動報告時間の案分について

- ・こども部会の問題提起を最優先の課題として全体会に報告することを決定した。

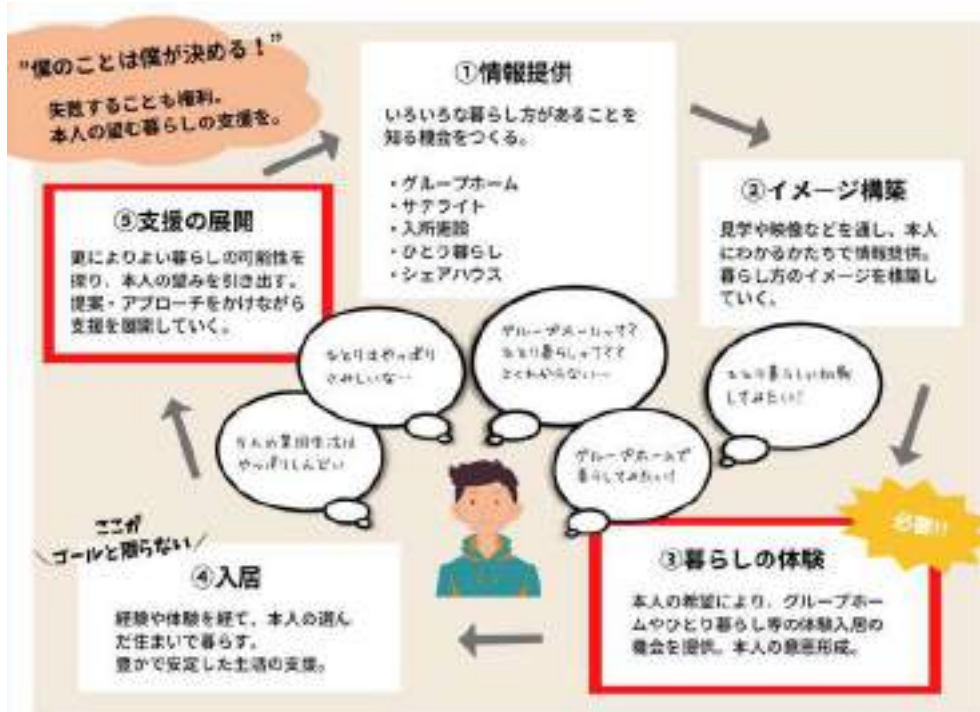
## グループホームを知る機会の拡充と体験利用の運用改善について

グループホームは、4、5名の利用者が家庭に近い居住環境で共同生活を行うケア付きの小規模住居である。基本的に入居期限がなく、終の棲家として、また単身生活への移行に向けた訓練の場としても利用できる柔軟性を併せ持つ地域生活における重要な選択肢の一つとなっている。

しかしながら、グループホームは障害の重度化や家族等の高齢化等により、在宅生活が困難となったタイミングではじめて利用を検討するサービスとして定着している。このように認識される理由は、当事者や家族・支援者が、グループホームの内実を知る機会が少ないからである。日中活動系のサービスは、“見学”から“体験利用”を経て、サービスの利用を検討するという手順が確立されている。一方、グループホームは住居であり、満床の場合は居室の“見学”が難しいという事情がある。また“体験利用”は、空床があることが前提となる。

これらを踏まえて、グループホームを知る機会の拡充と体験利用の運用改善について協議・検討願いたい。

図：【目指す未来】障害があっても、経験や体験を経て本人の選んだ住まいで暮らす！



資料出所：社会福祉法人 明桜会

## 「明石市移動支援ガイドライン」に関する疑義照会

相談支援連絡会では、利用者の障害状況により単独で通学・通所ができず、家族の高齢化や疾病、または生計を維持するための就労等やむを得ない理由で介護が困難となり、移動時の支援を必要としている事例の整理・集約および検証を行った。

移動支援は、障害者の自立した生活および社会参加を支える重要な事業であるが、通年かつ長期にわたる利用は認められず、通所・通園・通学に対応できないという制限がある。これらのニーズに対して条件付きで支給決定を受けている事例がある一方で、「3か月で改善が見込めなければ支給決定できない」との説明を受けて申請を諦めた事例もあった。このたび、相談支援専門員の意見を集約して、「明石市移動支援ガイドライン」に関する疑義照会をまとめたので協議・検討願いたい。

### (1. 「移動支援」の事業目的・内容)

問1 「原則として、1日の範囲内で要務を終えるもの」と定義されているが、宿泊を伴う社会参加の希望は一律に認めないという考え方か。

### (3. 対象者・身体障害者(児))

問2 身体障害の場合、体幹機能障害が伴わない片麻痺の場合は利用できないのか。

### (3. 対象者：児童における移動支援事業の取り扱い)

問3 「未成年の移動支援は原則保護者同伴での利用が想定されている」と定義されているが、以下の事例の取り扱いはどうなるか。

#### [事例]

通学時のバス停までの途上で、保護者の存在が刺激となり、行き渋りや道端で動かなくなるという行動が誘発される。

### (4. 移動支援の対象となる外出—移動方法)

問4 「ガイドヘルパー1人が運転、利用者が乗車し、隣にはガイドヘルパーがいない移動方法は利用不可」と定義されているが、ADLの低下により歩くことが難しい、車窓からの景色を眺めることで落ち着くなど車両を用いた外出ニーズが少なからずあるため、ガイドヘルパー1人対応による車移動を限定的に認めてもらえないか。

### (○移動支援の対象となる例)

問5 「映画鑑賞等でヘルパーの支援が一時的に不要になる場合にはその時間は算定できない」と定義されているが、要否はどのように判断するのか。



(×移動支援の対象とならない外出)

問6 「通年(1年を通じて定期的なもの、1週間に1回といった頻度が決まっているもの)かつ長期(概ね3か月を超えるもの)にわたる外出でないものが対象」と定義されているが、習い事に毎週参加したいという希望の取り扱いはどうなるか。

(×移動支援の対象とならない外出)

問7 短期入所利用時の送迎に移動支援は利用できないか。

(×移動支援の対象とならない外出)

問8 短期入所利用中の通所に移動支援は利用できないか。

(×移動支援の対象とならない例)

問9 「通園・通学は通年かつ長期にわたる外出であるため移動支援の対象とならない」と定義されているが、保護者の支えだけでは通学できない以下の事例の扱いはどうなるか。

[事例]

通学時のバス停まで保護者が送っている。本児が興味のあるものに惹かれて寄り道をしようとしたり、道端に座り込んだりするため、バス停に辿り着くまでに時間を要してしまい、バスの時間に間に合わない時は学校を休んでいる。

(×移動支援の対象とならない例)

問10 特殊法人や地方公共団体による施行が許可された賭け事である「競馬・競輪・競艇」が「社会通念上適切でない外出」と定義されるのはなぜか。

(×移動支援の対象とならない例)

問11 「移動支援事業者等が発案・企画したイベント等への参加」は健全な事業の運営が市民から疑われるため認められないと定義されている。移動支援の目的の一つは「社会参加を促す」ことであり、例えば知的障害のある人は余暇の過ごし方を自発的に考えることが難しい場合もあり、当該イベントが社会参加の契機となる可能性もあるが、一律に認められないのか。

(13. その他留意事項)

問12 突発的、一時的な事情で、やむを得ずガイドラインと異なる利用を希望する場合は、①支援調整報告書の提出、②定期的な状況確認が必要となり、期間限定での支給決定となると定義されているが、以下のように、本人の障害特性や環境要因に改善が望めない事例においても①、②は必須か。

[事例1]

視覚障害、軽度知的障害がある。送迎サービスのない就労継続支援B型事業所を13年間利用している。保護者が送迎を担ってきたが高齢となり、対応が難しくなった。送迎サービスのある就労継続支援B型事業所を見学したが、当該利用者は転

所を望まない。

[事例 2]

自閉症に伴う強度行動障害があり常に見守りが必要である。ひとり親家庭で母は就業のため早朝から出勤しなければならず、通所施設の送迎車の到着を一緒に待つことができない。そのため移動支援を利用して散歩をするなどして送迎車を待っている。

[事例 3]

自閉症に伴う強度行動障害があり、自傷他害のほか、道路への飛び出しなど突発的な行動があるため常に見守りが必要である。21 年間利用している生活介護事業所は送迎サービスがなく、移動支援を利用して通所している。

(13. その他留意事項)

問 13 「移動支援はその人が本来移動できる範囲の移動を保障するサービス」と定義されているが、重度の肢体不自由や知的障害がある場合、「その人が本来移動できる範囲」をどのように考えるのか。

(13. その他留意事項)

問 14 児童における移動支援事業の取り扱いにおいて、「児童がひとりで外出できない場所へ移動支援を利用することは原則認めない」と定義し、「テーマパークや市外への買い物・イベント等は、小学校・中学校年齢の児童が社会通念上 1 人で行動する範囲ではないため移動支援の対象とならない」と示しているが、他市との境に居住する児童の場合も一律の運用か。

(以下、余白)

## チャレンジウィークの施策化に向けて

しごと部会は、「就労継続支援 B 型利用者の就労に関する意向調査」の結果を踏まえて、就労継続支援 B 型利用者のうち、「サービス等利用計画」または「個別支援計画」のいずれかに、一般就労（就労継続支援 A 型を含む）を支援目標として位置付けている者、または支援者が就労の可能性を見出している者が、希望や能力に即した働き方ができるよう、チャレンジウィークの仕組みを再編することを優先課題としている。

チャレンジウィークの意義は、実際の企業で働くという経験を積むことと、その働きに対する評価を得ることにある。ただし、いくつか問題が提起されている。1つ目に、協力企業数と利用希望者数の不均衡が挙げられる。企業開拓と利用者募集の方法を見直す必要がある。2つ目に、運営側のマンパワー不足が挙げられる。根本的に関わる人数を増やしていく必要がある。3つ目にチャレンジウィークに参加した後の支援スキームがないことが挙げられる。これまでチャレンジウィークには延べ 45 名が参加している。想像するに、在籍事業所で取り組む福祉的就労への動機づけが変化した者や、就労移行支援や就労移行支援 A 型への転籍を検討した者がいたかもしれないが、利用者の未来にどのような影響をもたらしたのかは推測の域を出ない。企業の評価を踏まえて、“これから”を検討する仕組みがなければ、チャレンジウィークの価値そのものが半減してしまう。具体的に求められる支援は、利用者の就労に関する意向の再確認と、それに伴う「個別支援計画」や「サービス等利用計画」の見直しであり、相談支援専門員の関与が必須となる。4つ目に、協力企業にとって可視化できるメリットが殆どないことが挙げられる。チャレンジウィークの最も重要な構成要素は協力企業であり、何かしらのインセンティブがあっても良いと考えている。

チャレンジウィークを持続可能な取り組みとするために、4つの論点に対して協議・検討願いたい。






地域自立支援協議会 東播磨圏域（3市2町）の状況

令和5年2月14日現在  
 (おとりまとも) 東播磨圏域コーディネーター 瀬口直樹

	明石市	加古川市	高砂市	福崎町	播磨町
名称	明石市地域自立支援協議会	加古川市障害者自立支援協議会	高砂市障がい者自立支援協議会	福崎町地域自立支援協議会	播磨町地域自立支援協議会
設置	平成22年(2010年)2月 ◎全体会(年2回程度) 事務局は市障害福祉課 ○運営会議(年4回) 以下、事務局は基幹相談支援センター ●相談支援連絡会(毎月) ●サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者連絡会(年1回)	平成21年(2009年)12月 ・全体会(年2回程度) 事務局は市障がい者支援課 ・専門部会 事務局は障がい者基幹相談支援センター ※ 令和3年度より3専門部会に編成 【以下、令和4年度実績を中心に記載】 ◻くらし・こども専門部会 ◻くらし部会 ◻こども部会 ★医療的ケアワーキング ★就学児ワーキング ★未就学児ワーキング ◻しごと・個別解決専門部会 ◻しごと部会 ◻個別解決部会 ◻相談支援専門部会	平成20年(2008年)9月 ◎全体会(年1回) ▼運営会議(年2回) ▼地域課題抽出の会(年1回) ▼くらし専門部会(年4回) ▼ワーキング ①お出かけマップ作成ワーキング(運営2回) ②防災手帳改訂ワーキング(運営11回) ③防犯ワーキング(運営14回) ④ヘルパー事業所連絡会(年3回終了) ▼こども専門部会(年4回) ①こども事業所ワーキング(年4回) ②医療的ケアワーキング(運営14回) ③トライアングルプロジェクト推進ワーキング(運営1回) ④体験者向けハンドブック作成ワーキング(全13回終了) ▼地域啓発「高砂ユニナビ」 ①ユニナビサッカー教室(巡回開催) ②Tシャツデザインコンテスト(年1回) ③ユニナビシネマ(年1回) ④ユニナビサロン(毎月第4日曜)	平成23年(2011年)11月 ・全体会(年1回) ・運営会議(年4回程度) ・専門部会 くらし部会(年1回程度) 部会調整会議(運営) ・地域生活支援拠点体制づくり準備会・ワーキング(令和3年度まで) こども部会(年1回程度) 部会調整会議(運営) 課題別会議(随時) 研修会(年1回)	平成22年(2010年)6月 ・推進会議(年2回) ・全体会 一割参加型の研修会 ・運営会議 ・部会 ◻くらし部会 ◻もたつ部会 ◻はたらく部会 ◻まもる部会
体制	◎全体会(年2回程度) 事務局は市障害福祉課 ○運営会議(年4回) 以下、事務局は基幹相談支援センター ●相談支援連絡会(毎月) ●サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者連絡会(年1回) ◻くらし部会 ①本会議(年4回程度) ②ワーキングの設置・運営 ・ハートフルあかし ・ヘルパーのつどい ・生活介護事業所連絡会 ・すまいの会 ③プロジェクト ・障害福祉サービス等支援事業者向け種 神原療育施設研修 ・福祉学習推進プロジェクト ◻しごと部会 ①本会議(年4回程度) ②ワーキングの設置・運営 ・B型事業所ネットワーク ③プロジェクト ・チャレンジウィーク ◻こども部会 ①本会議(年4回程度) ②ワーキングの設置・運営 ・児童発達サービス等事業所連絡会 ③プロジェクト ・障害福祉サービスプロジェクト ・10,000人メッセージプロジェクト する情報発信プロジェクト	◎全体会(年2回程度) 事務局は市障がい者支援課 ・専門部会 事務局は障がい者基幹相談支援センター ※ 令和3年度より3専門部会に編成 【以下、令和4年度実績を中心に記載】 ◻くらし・こども専門部会 ◻くらし部会 ◻こども部会 ★医療的ケアワーキング ★就学児ワーキング ★未就学児ワーキング ◻しごと・個別解決専門部会 ◻しごと部会 ◻個別解決部会 ◻相談支援専門部会	◎全体会(年1回) ▼運営会議(年2回) ▼地域課題抽出の会(年1回) ▼くらし専門部会(年4回) ▼ワーキング ①お出かけマップ作成ワーキング(運営2回) ②防災手帳改訂ワーキング(運営11回) ③防犯ワーキング(運営14回) ④ヘルパー事業所連絡会(年3回終了) ▼こども専門部会(年4回) ①こども事業所ワーキング(年4回) ②医療的ケアワーキング(運営14回) ③トライアングルプロジェクト推進ワーキング(運営1回) ④体験者向けハンドブック作成ワーキング(全13回終了) ▼地域啓発「高砂ユニナビ」 ①ユニナビサッカー教室(巡回開催) ②Tシャツデザインコンテスト(年1回) ③ユニナビシネマ(年1回) ④ユニナビサロン(毎月第4日曜)	◎全体会(年1回) ・運営会議(年4回程度) ・専門部会 くらし部会(年1回程度) 部会調整会議(運営) ・地域生活支援拠点体制づくり準備会・ワーキング(令和3年度まで) こども部会(年1回程度) 部会調整会議(運営) 課題別会議(随時) 研修会(年1回)	◎全体会(年2回程度) 事務局は市障害福祉課 ○運営会議(年4回) 以下、事務局は基幹相談支援センター ●相談支援連絡会(毎月) ●サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者連絡会(年1回) ◻くらし部会 ①本会議(年4回程度) ②ワーキングの設置・運営 ・ハートフルあかし ・ヘルパーのつどい ・生活介護事業所連絡会 ・すまいの会 ③プロジェクト ・障害福祉サービス等支援事業者向け種 神原療育施設研修 ・福祉学習推進プロジェクト ◻しごと部会 ①本会議(年4回程度) ②ワーキングの設置・運営 ・B型事業所ネットワーク ③プロジェクト ・チャレンジウィーク ◻こども部会 ①本会議(年4回程度) ②ワーキングの設置・運営 ・児童発達サービス等事業所連絡会 ③プロジェクト ・障害福祉サービスプロジェクト ・10,000人メッセージプロジェクト する情報発信プロジェクト

<p>【<b>成果</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における精神科病院、居宅介護サービス事業所、居宅系サービス事業所、生活介護事業所の実態調査</li> <li>・精神障害に対する理解を促進するための教材開発および地区社会福祉協議会への福祉学習出版</li> <li>・グループホーム実態調査(回答数=45件)</li> <li>・ホームヘルパーに対する自殺対策アンケートアンケート作成の開催</li> </ul> <p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における就労継続支援B型事業所の実態調査</li> <li>・コブコウ市市内5店舗(つながるマルシェ)および県立高校(きすな)での座席活動</li> <li>・就労継続支援B型利用者の就労に関する意向調査(回答数=45件)</li> <li>・就労移行WEB見学会の開催(予定)</li> </ul> <p>【<b>成果</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における就労継続支援B型事業所等の実態調査</li> <li>『あかし児童発達サービス等ガイドブック(第3版)』の発行</li> <li>・10,000人・メッセーゴプロジェクト(令和0年1月末時点で2,200名)</li> <li>・児童発達支援施設の利用に関するアンケート調査(回答数=865件)</li> </ul> <p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設支援連絡会</li> <li>・住まいの確保に困難が生じている事例の整理・集約</li> <li>・通学・通所をはじめとする移動に困難のある事例の整理・集約</li> <li>・兵庫県防災と福祉の連携推進モデル事業」の実践報告会</li> <li>・「防災対応力向上シート」を活用した防災への取り組みについての実践報告会</li> </ul> <p>【<b>成果</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス管理責任者等連絡会</li> <li>・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者業務についての実践報告・意見交換会</li> </ul>	<p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度業績 ※1月以降掲載</li> <li>【<b>成果</b>】子ども専門部会 (1回)</li> <li>【<b>活動</b>】部会 (3回)</li> <li>・部会員の育成</li> <li>・グループホームサポートシートの改訂</li> <li>・グループホーム間のネットワークづくり</li> <li>・BCP(事業継続計画)の情報共有</li> </ul> <p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【<b>成果</b>】子ども部会 (2回)</li> <li>・各ワーキングでの協議内容の共有</li> <li>◆連携的ケアワーキング (4回)</li> <li>・連携的ケア見コーディネーターについて</li> <li>・特別支援学校等を卒業後に帰郷に少なくなる連携的ケアに係る制度やサービス等に関する情報提供について</li> <li>◆「高度療育的ケア児支援センター」の情報共有</li> <li>◆就学児ワーキング (2回)</li> <li>◆未就学児ワーキング (3回)</li> <li>◆学校と福祉サービス事業所との連携について</li> <li>◆配慮が必要な未就学児の就学に向けた相談先について</li> </ul> <p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【<b>成果</b>】個別関係専門部会</li> <li>【<b>活動</b>】部会 (3回)</li> <li>・「事業所意見交換会」について</li> <li>・「事業所意見交換会」の開催</li> <li>【<b>成果</b>】個別関係部会 (開催なし)</li> <li>・今年度の開催はないが、今後「連携的ケア児消地域協議会」とのあり方を整理し、具体的な取り組みを進めていく予定</li> </ul> <p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【<b>成果</b>】施設支援専門部会</li> <li>◆定例会 (9回)</li> <li>・「計画形動」に係る様々なテーマ(連携的ケア児の支援、成年後見支援センター、高齢者虐待防止等)をとり上げ、グループワーク等を通して意見交換を実施</li> <li>◆メールフォーラム (2回)</li> <li>・多職種連携を図るための制度や他職種における役割・役割を学ぶ機会として設置</li> <li>・「誰がいき支援」と「誰がいき支援施設ありの家」より説明と質疑応答</li> </ul>	<p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【<b>成果</b>】(年4回)</li> <li>・体前活動の充実について</li> <li>・ヘルパー不足について</li> <li>・福祉職員の整備について</li> <li>【<b>活動</b>】</li> <li>・出張ワークショップワーキング</li> <li>・当事者が同伴者を出かけけるためのバリアフリー情報を集めた素晴らしいマップ作りをネットに発信している。</li> <li>【<b>活動</b>】</li> <li>・防災学習部会(年4回)</li> <li>・災害対策基本法の改正を受け、福祉避難所の利用方法や個別避難計画作成方法について具体的な情報を反映した手帳作成を進める。</li> <li>【<b>活動</b>】</li> <li>・就労ワーキング</li> <li>・地元企業と就労支援事業所のマッチングを目的としたイベント作成を進める。</li> <li>【<b>活動</b>】</li> <li>・ヘルパー不足に関する協議</li> <li>・ヘルパー不足について協議を進め、課題解決には必要な社会変化が必要との結論に至りました。</li> <li>【<b>活動</b>】</li> <li>【<b>成果</b>】(年4回)</li> <li>①福祉と教育の連携について協議</li> <li>②連携的ケア見支援について</li> <li>【<b>活動</b>】</li> <li>・子ども発達支援ワーキング(年4回)</li> <li>児童発達支援センターと連携</li> <li>主に放課後等デイサービスの運営に必要な情報交換の場、並行地域におけるサービスの質の向上を目的とした定例会を開催</li> <li>【<b>活動</b>】</li> <li>・連携的ケアワーキング(通算14回)</li> <li>・連携的ケア見支援部会を立ち上げ、連携的ケア児が地域普通校へ就学するための管理配置や通学の送迎調整等について協議</li> <li>【<b>活動</b>】</li> <li>・ライアングルプロジェクト推進ワーキング</li> <li>・連携的ケア見支援センター(ライアングルプロジェクト)を推進するために、教育関係、福祉関係が協議を始めた。</li> <li>【<b>活動</b>】</li> <li>・施設管理1部会(臨時)</li> <li>・施設FCチーム(ライアングル)と連携</li> <li>・インクルーシブなサッカークラブを目指す。</li> <li>②ユニバシティ(年1回)</li> <li>・誰がいきへの帰郷を目的に啓発活動を上映。(2019) こんな夜更けにバナナかよ(中止)</li> <li>(2020) 響の形(中止)</li> <li>(2021) 普通に見えぬ一いの中の自立～</li> </ul>	<p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域生活支援拠点体制づくり準備会・ワーキング(令和3年度まで)</li> <li>・地域生活支援拠点等の整備</li> <li>・グループホーム・短期入所事業所との連携による体勢利用・緊急時の受け入れ・対応の方便</li> <li>・連携会・ワーキング及び運営会議等の取組により</li> <li>・一体的入所モデル事業開始(令和3年度～)</li> <li>② 地域生活支援拠点等の整備を要する入所施設入所モデル事業等の取組み</li> <li>③ 就労に向けての各種関(就業・生活支援センター、就労継続支援事業所、基礎情報支援センター、行政等)の情報共有・連携のあり方</li> </ul> <p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 現在活用できる資源(各種施設等)の情報収集・共有の方法</li> <li>② 連携的ケア見への福祉サービス・対応の状況</li> <li>③ 関心度への福祉サービス・対応の状況</li> <li>④ 教育・家・福祉の連携</li> </ul> <p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県自立支援協議会の役割</li> <li>・利用者のための事業所情報の提供のあり方</li> </ul>	<p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度からの運営方針、運営推進計画、障害児福祉計画等に向けて、前倒し取り組み</li> <li>◆コア会議・キックオフ 7月</li> <li>兵庫県立大学 竹嶋寛 准理人(学長) 光太郎 コアメンバーによるアンケート調査項目検討</li> <li>兵庫県福祉福祉協議会福祉部、福祉推進委員会、高齢支援センター→総合相談と自立支援協議会、関係者等との連携により取り組む</li> <li>◆&lt;連携推進&gt; 一歩向け、当事者向け、事業者向けアンケートの実施</li> <li>◆&lt;自立支援協議会&gt; 計画策定に重要を反映するために、「どないしたまさんゆうき組(連合会)」も同ワーキングに参加 *別紙</li> <li>そだつ・まなぶ、はたらく、くらす、お金と契約</li> <li>防災、フリーワーク 課題まとめ *別紙</li> <li>◆&lt;コア会議&gt;</li> <li>アンケート結果とWSでの意見をどう計画に反映していくか</li> </ul> <p>【<b>活動</b>】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信サイト 4Cities Map</li> <li>2市2町連絡会</li> <li>* 関知のためのカード配布</li> <li>◆ 啓発チラシ</li> <li>* 別紙</li> <li>◆ こころのバリアフリー作品展 4月</li> <li>・ 自閉症・発達障害啓発</li> <li>◆ こころのバリアフリー作品展 12月</li> <li>・ 運営者週間啓発</li> <li>◆ 全体研修会</li> <li>・ 運営者研修会 OET 8月</li> <li>◆ 管内発行兵庫県立大学学長挨拶</li> <li>・ 監事が生まれてい地域づくりとは 10月</li> <li>◆ CFの視点から(社会モデルとして視点)</li> <li>◆ 神谷牧人(元神北園福祉推進等施設支援)</li> <li>◆ コーディネーター</li> <li>◆ 緊急事態研修会 10月</li> <li>◆ 救えて玉木さん! 連携の「福所展」をまちづくり</li> <li>◆ 玉木孝典氏</li> <li>◆ 運営者連絡会 2月</li> <li>◆ 管内発行兵庫県立大学学長挨拶</li> <li>◆ 親子防災訓練</li> <li>◆ 兵庫県防災士会(福祉エリア)との共催</li> </ul>
---	--	--	---	---

ホームページ	<p>HPあり(掲載)  <a href="http://www.akashi-jiritsushien.jp/">http://www.akashi-jiritsushien.jp/</a></p> <p><b>専門委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これからの明石市における障害福祉従事者の人材育成について(報告書)」の取り扱いについて</li> </ul> <p><b>くらし部会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害のある人への居住支援の実態について</li> <li>・グループホームを知る機会の拡充と体験訪問の運用改善について</li> </ul> <p><b>しごと部会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労継続支援B型利用者の就労へのステップアップに向けたサポートについて～「就労継続支援B型利用者の就労に関する意向調査」から～</li> </ul> <p><b>こども部会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集・情報支援のあり方について</li> </ul> <p>●指談支援連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの確保に関する問題について</li> <li>・「明石市就労支援ガイドライン」に関する展開面会について</li> </ul>	<p>HPあり(掲載)  <a href="http://www.kakogawa-jiritsushien.jp/">http://www.kakogawa-jiritsushien.jp/</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時等を見据えた医療的ケア児(童)等への発電機・非常用バッテリー等の購入補助について</li> </ul>	<p>(2022)ジョゼと農と農と農たち  「シャツアデザインコンテスト(年1回)」実施される体験を通じて自己肯定感を育む。  ④ユニバザロン(毎月第4日曜日)  当事者が自立を目指し、成長や学びを獲得するためのサロン</p> <p>HP(高齢ユニナビ)あり(掲載)  Facebookあり、Instagramあり、LINEあり  4011iesnp 福祉事業所検索サイト</p> <p><b>【くらし部会】</b>  (政策提言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉避難所の整備および個別避難計画推進、在宅避難者への物資支援について</li> <li>・ヘルパー不足について</li> </ul> <p><b>【こども部会】</b>  (政策提言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア児の連携支援について</li> <li>・教育と福祉の連携「トライアングルプロジェクトの推進」について。</li> </ul>  <p>(2022)ジョゼと農と農と農たち上峰会</p>  <p>第8回Tシャツアデザインコンテスト発表式</p>  <p>ユニナビサロン</p>	<p>HPあり  (町情報地域福祉課内)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急期いなみ課がいづれ計画策定に向けての意見・提案</li> <li>・体験入所モデル事業実施に向けての意見・提案・実施協力</li> </ul>	<p>HPあり(掲載)  Facebookあり、Twitterあり</p> <p><b>の連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会 就学サポート会議</li> <li>・自衛隊対抗隊協力連携</li> </ul> <p>RS年度 自立支援協議会の部会運営  アンケート結果、WSの意見を踏まえて、計画に反映し、具体的な取り組みを行うための検討を各部会で行う。</p>	<p>※業務領域、県へ提言したいこと</p> <p>① 人材不足の解消  人材育成の費用、自らが新たな人材の育成</p> <p>② 地域包括ケアシステムの体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害と高齢のつなぎ研修のような研修</li> </ul> <p>精神病院の連携室、心療内科等との連携と情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察との連携、情報共有</li> </ul> <p>福祉サービス、年金や地域生活についての情報</p> <p>犯罪に巻き込まれた時、触法した時、暴力、虐待防止、自殺防止、犯罪予防</p> <p>③ 啓発 関係共同で  社会モデルとしての障害をとらえる</p>
--------	---	---	--	--	---	---

誰ひとり、取り残さない明石を目指して



障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信プロジェクト報告

2023年9月 情報発信プロジェクト実行委員

一人ひとり、考えて下さい。

# どちらが分かりやすく、安心できるでしょう？

## A

## B

事業所	児童発達支援事業	放課後児童健全育成事業	障害児放課後サービス	児童発達支援センター	事業所名称	住所	電話番号 FAX番号
デザイナーズ太陽の子			●		〒7300 明石市磯江1651番地の64-44	078-926-1149 078-926-1134	
児童発達支援・放課後等デイサービスゆりかご	●	●			〒7300 明石市磯江3958番地の63-44	078-219-3254 078-219-3146	
ひだまり			●		〒7300 明石市磯江2977-4 1階	078-219-4770 078-219-4771	
児童デザイナーズキッズ☆スター	●	●			〒7300 明石市磯江886-51	078-923-2782 078-928-7117	
明石伸しいかい			●		〒7300 明石市東園通南1-1 海和成石公園ハイタウン寄号棟110号	078-920-8277 078-920-8978	
CRELO	●	●	●		〒7300 明石市東新園5-16	078-223-8726 078-223-8728	
ぱたぱた幼稚園	●	●			〒7300 明石市中朝園11-1 レジデンス中期 藤立1階	078-995-9312 078-995-9314	
ラメール			●		〒7300 明石市中朝園4-19-3	078-223-2901 078-223-2901	
ラメール			●		〒7300 明石市中朝園4-15-1	078-223-2901 078-223-2901	
ホーム松が丘			●	●	〒7300 明石市松が丘1丁目17番17号	078-912-2880 078-912-2880	
あさびら音楽堂児童デイサービス			●		〒7300 明石市朝陽町1丁目20-20 1F	078-938-2805 078-938-2840	
児童発達支援事業所アイアイキッズ	●				〒7300 明石市大蔵寺4-10-2F	078-911-8045 078-911-8045	
えくぼ	●	●			〒7300 明石市朝陽町西二丁目15番13号店117号	078-938-4301 078-938-4301	
イオム	●	●			〒7300 明石市大蔵寺20-1	078-914-1400	

**24 明石市立 ゆりかご園 MAP 24**  
〒7674-0051 明石市大久保町大塚2752

☎ 078-918-5574 FAX 078-918-5579  
✉ yurikagoen@city.kashi.lg.jp

**目的・内容**・**対象者**  
・身体に障害や発達障害のあるお子さんが、保護者と一緒に遊ぶ場です。  
・こどもみちへは自分らしく地域で生活していける人に育つように、保護者へは、お子さんとともに地域で生活していく力を授けることができるように、養育や子育てをおこなっています。

活動の紹介はこちらです。

**所在地** 明石市  
**休 日** 月曜日～金曜日  
**活動時間** 9時20分～15時00分  
(休室) 15時00分～16時30分  
**備 考** 大久保駅より東園バスの送迎をおこなっています。



**25 児童発達支援センター いろえんがつ山手 MAP 25**  
〒7674-0051 明石市大久保町大塚1723-4 海和ビル2階

☎ 078-935-2956 FAX 078-935-2955  
✉ info@iroeengatsuyama.co.jp  
<http://www.iroeengatsuyama.com/>

**目的・内容**・**対象者**  
多彩なプログラムで豊かに遊び通った支援、個別までの居れぬいない支援をおこないます。  
(毎月のお祭会)も取り混ぜ。

― 一般の方からご厚意をいただくために(委託事業体)運営を行っております。(ご利用のない支援)ができるように運営プログラムが異なります。

・名称・内容は、随時改行が行われます。  
・お近くの(いろえんがつ)までお申し込みください。  
**休 日** 金曜4時～午後7時  
**休 日** 月曜日～土曜日  
**活動時間** 〈学校休業日〉15時00分～17時30分  
〈学校休養日〉10時00分～16時00分  
**備 考** 有り



**26 児童発達支援センター 児童発達支援センター feel MAP 26**  
〒7674-0051 明石市大久保町大塚1507-0

☎ 078-220-3234 FAX 078-224-1023  
✉ cocoro2017@zeus.esnet.ne.jp  
<http://cocotosko.web.fc2.com/>

**目的・内容**・**対象者**  
有資格者による個別・少人数での学習、ことば、対人関係、遊戯、ピアノ、馬術、聞く力の練習

・NIS及障後援者を通してお子さんにとって学習しやすい支援をおこなっています。



**27 児童発達支援センター ハッピークローバー MAP 27**  
〒7674-0056 明石市大久保町山手台1丁目37-1

☎ 078-937-1588 FAX 078-937-1589  
✉ happyclover@happyflower9908.com  
<http://happyclover9908.com/>

**目的・内容**・**対象者**  
フレンドリーな活動・遊び・外出などの場内・外・フィールド等を行い、成長段階・身体・精神発達に合わせた社会的な経験をします。

①ハッピークローバーからのアプローチをまじえ、作業療法士・治療士と一緒に、運動・認知・感覚・知



どちらが分かりやすく、安心できるでしょう？

A

B

■ 相談サービス

地域相談支援(地域移行支援)
  地域相談支援(地域定着支援)
  計画相談支援
  障害児相談支援

地図から選択 
 地図移動時に再読み込み



E. 079-448-4545  
 E. 児童デイサービスふゆま  
 障害児発達サービス  
 〇兵庫県立社会福祉事業5-04-1  
 ☎079-254-3292

F. 児童・放課後デイ HDPF  
 障害児発達サービス  
 〇兵庫県立社会福祉1丁目7番10号グレンジ  
 ユーセンター202号  
 ☎079-497-7065

G. D.I.E. かわ  
 障害児発達サービス  
 〇兵庫県立社会福祉1丁目14-13  
 ☎079-497-7788

H. せからんこ  
 障害児発達サービス  
 〇兵庫県立社会福祉5丁目5-5-2  
 ☎079-442-6007

児童発達支援 放課後デイサービス

高砂市

児童・放課後デイHOPE

ご利用されるお子様と保護者様により思い、個別指導スタイルでできる様々な支援を行います。

発達障がいなどの課題を克服した子どもたちに自信をもって暮らせる、本人が夢を抱かしている「生きがき」を目指しています。  
本人が得意、得意を持って社会参加、自立ができるように成長のサポートをさせていただきます。

〇 高砂駅前から徒歩2分。...  
 〇 079-497-7065

詳しく問い合わせる



児童発達サービス

高砂市

児童デイサービス アンソレイエ安藤

安心して過ごせる居心地のよい場所で、日々の成長を見守ります。

【大切にしていること】  
 ＊子どもたちが毎日、アンソレイエ安藤に行くのが楽しみになるような居心地のよい空間を創ります。  
 ＊子どもたちとスタッフとの心の交流を深め、居場所の意識を大切にします。...

〇 明神神前町南立寄高砂470mをこえた左折手前です。  
 〇 079-443-7755

詳しく問い合わせる



どちらが安心して利用したいと思うでしょう？

A



こどもに寄り添った療育を行います。

B



こどもに寄り添った療育を行います。

# A

## 代表者の記載がないホームページ

理事長あいさつ

子どもたち一人ひとりの思いを大切にした療育を進めて参ります

明石市立あおぞら園は、平成21年4月に当社会福祉法人 三田谷治療教育院が明石市より委託を受けて開設し、19年目を迎えました。

開設より、当法人の理念であります「治療教育」の實踐と「真と善の二分法」で表現されるご家族に寄り添う支援に、地域、関係機関の皆様のご理解とご支援のもと取り組んで参りました。

私は学生時代に治療教育のひとつであるモンテッソーリ教育と出会い、モンテッソーリ先生に一目惚れして障害児教育の道に進みました。そして、少ないながらもいろいろな経験をさせていただき40年近くの歳月が流れました。あおぞら園では2018年より、療育を通して子どもたちとお付き合いさせていただいています。これからは園全体を考える立場として、三田谷治療教育院の治療教育を目的の子どもたちに向けたものにしていきながら、子どもたち一人ひとりの思い

# B

## 代表者の記載があるホームページ

理事長あいさつ

子どもたち一人ひとりの思いを大切にした療育を進めて参ります

明石市立あおぞら園は、平成21年4月に当社会福祉法人 三田谷治療教育院が明石市より委託を受けて開設し、19年目を迎えました。

開設より、当法人の理念であります「治療教育」の實踐と「真と善の二分法」で表現されるご家族に寄り添う支援に、地域、関係機関の皆様のご理解とご支援のもと取り組んで参りました。

私は学生時代に治療教育のひとつであるモンテッソーリ教育と出会い、モンテッソーリ先生に一目惚れして障害児教育の道に進みました。そして、少ないながらもいろいろな経験をさせていただき40年近くの歳月が流れました。あおぞら園では2018年より、療育を通して子どもたちとお付き合いさせていただいています。これからは園全体を考える立場として、三田谷治療教育院の治療教育を目的の子どもたちに向けたものにしていきながら、子どもたち一人ひとりの思い



社会福祉法人 三田谷治療教育院  
明石市立 あおぞら園  
理事長 浅原 奈緒子

## プロジェクトメンバー

氏名	所属
服部 記昌	社会福祉法人三田谷治療教育院 明石市立あおぞら園・きらきら
木村 直樹	合資会社みち 放課後等デイサービス太陽・放課後等デイサービス太陽の子
宮田 賢吾	兵庫県立いなみ野特別支援学校
石田 育大	株式会社うみのほし うみのほしウエスト相談新事業所
竹中 篤子	特定非営利活動法人こども発達サポートセンター 相談支援事業所シーム
青木 悠	特定非営利活動法人ソーシャルサポートセンターひょうご
松本 将八	特定非営利活動法人こぐまくらぶ
加藤 彩子	明石市福祉厚生生活支援空母福祉課
藤原 慶二	関西福祉大学社会福祉学部教授

### 事務局

後藤 謙武	社会福祉法人明石市社会福祉協議会 明石市基幹相談支援センター東障害者虐待防止センター（明石市地域自立支援協議会 運営会議事務局）
藤原 桂子	
二星 光沙	

## 情報発信プロジェクト会議





～誰ひとり、取り残さない～



デジタル化・システムの効率化



# 発足した経緯 (資料P1)

## 児童通所サービス等ガイドブック



# 発足した経緯 (資料P1)

## 児童通所サービス等ガイドブック



正確な情報をタイムリーに発信できない！

## 発足した経緯（資料P1）



情報の整理・集約・校正作業

更新作業に限界がある！

## 発足した経緯（資料P1）

### 情報発信プロジェクトチーム発足！

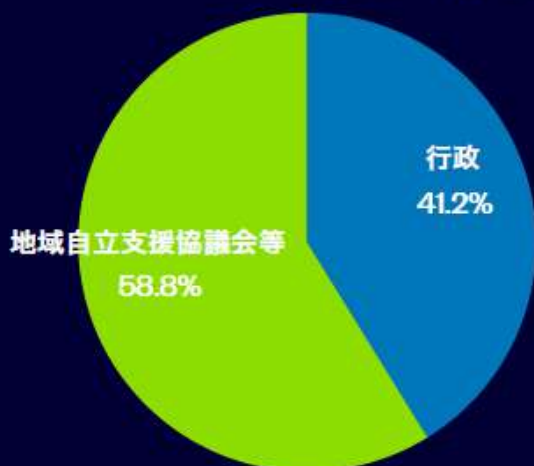
氏名	所属
服部 記昌	社会福祉法人三田谷治療教育院 明石市立あおぞら園・きらきら
木村 直樹	合資会社みち 放課後等デイサービス太陽・放課後等デイサービス太陽の子
宮田 賢吾	兵庫県立いなみ野特別支援学校
石田 育大	株式会社うみのほし うみのほしウエスト相談事業所
竹中 篤子	特定非営利活動法人こども発達サポートセンター 相談支援事業所シーム
青木 悠	特定非営利活動法人ソーシャルサポートセンターひょうご
松本 将八	特定非営利活動法人こぐまくらぶ
加藤 彩子	明石市福祉局生活支援空庫福祉課
藤原 慶二	関西福祉大学社会福祉学部教授

後藤 謹武	社会福祉法人明石市社会福祉協議会 明石市基幹相談支援センター兼障害者虐待防止センター（明石市地域自立支援協議会 運営会議事務局）
藤原 桂子	
二星 光沙	



## はじめの調査（資料P2～P5）

### インターネット調査結果（作成主体）



- ①対象：「〇〇市 児童通所」「児童通所一覧」等のキーワードで検索。（閲覧可能な資料を調査対象）
- ②方法：インターネット検索
- ③項目：ガイドブック等掲載の事業所項目
- ④期間：2022年3月

## はじめの調査（資料P2～P5）

### 基本項目

掲載内容	掲載数	%
住所	17	100.0%
事業所名	17	100.0%
事業主体（法人）	13	76.6%
電話番号・FAX番号	17	100.0%
メールアドレス	13	76.6%
ホームページ	13	76.6%
営業日時	17	100.0%
送迎（範囲）	11	64.7%
食事提供	4	23.6%
活動内容	16	88.2%
地図	6	35.3%
写真	8	47.1%

### 独自項目

掲載内容	掲載数	%
アクセス	6	29.4%
開設時期	6	35.3%
児童通所以外に実施しているサービス種別	6	35.3%
対象年齢/医療的ケアの対応/アレルギー対応等	13	76.6%
定員	14	82.4%
スタッフ（職員数・保有資格等）	8	47.1%
経費	6	29.4%
設備	3	17.6%
日課・プログラム	7	41.2%
行事	6	29.4%
運営方針	3	17.6%
支援形態（個別/集団/親子）	8	47.1%
PR	10	58.6%
利用状の注意	3	17.6%
その他	8	47.1%



## 本調査（資料P6～P8）

調査対象：明石市内の指定児童通所支援施設  
を利用する児童の保護者

※プロジェクトメンバーが、  
各事業所に個別にアンケート用紙を配布し  
その後、個別に回収！！

調査期間：2022年7月1日～7月29日

**1952通配布！**

**回収数：868通 回収率：44.5%**



## 児童通所支援施設の利用に関するアンケート調査票（資料P 43～P46）

### 1.お子さまのことを教えてください。

(1) 2022年7月1日現在のご年齢（ ）歳

(2) 障がいの種別（複数回答可）

身体障がい 知的障がい（疑い含む） 発達障がい（疑い含む） 精神障がい 難病

(3) 医療的ケアの必要性

ある ない

(4) 療育・サービス利用の要件（複数回答可）

手帳を持っている（身体： 級／療育： 判定／精神： 級）

支援級または支援学校に在籍している

医師の診断書または意見書による

## 児童通所支援施設の利用に関するアンケート調査票（資料P 43～P46）

### 2.現在利用している事業所はどのようにして知りましたか？（複数回答可）

- 当該事業所のパンフレットを見て
- 当該事業所のホームページを見て
- WAMNET（福祉医療機構が運営する総合情報サイト）を見て
- あかし児童通所サービス等ガイドブックを見て
- 役所（こどもセンター・こども健康課・発達支援センター・保健師等）から聞いて
- 通園通学中の園や学校の先生から聞いて
- 他の保護者から聞いて
- かかりつけの医療機関から聞いて
- 医師の診断書または意見書による
- 相談支援専門員から聞いて
- 当該事業所の建物や看板を見て
- その他（      ）

## 児童通所支援施設の利用に関するアンケート調査票（資料P 43～P46）

### 3.現在利用している事業所は選んだ理由を教えてください。（優先順位が高いものを3つ）

- 本人が気に入ったから
- 知り合いが利用している
- 事業所の設備・環境が良かった
- サービス内容が気に入った
- 自宅からの距離が近かった
- 自宅からの距離が遠かった
- 他に利用するところがなかった
- 事業所の運営方針が気に入った
- 兄弟姉妹が利用している
- 職員の人柄・対応等が良かった
- 口コミで良い評判を聞いていた
- その他（      ）

## 児童通所支援施設の利用に関するアンケート調査票（資料P 43～P46）

### 4. サービスを利用する前段階（見学する前）に知りたかった情報を教えてください。（複数回答可）

#### （1）利用条件

- 現在の空き状況 受け入れ可能な年齢層 受け入れ可能な障がい種別  
サービス提供地域 その他（ ）

#### （2）職員体制

- 職員数 職員の保有資格 職員の研修・教育体制 職員の男女比 その他（ ）

#### （3）設備・環境

- 立地 事業所周辺の環境 建物出入口及び通路の環境 室内の広さ  
室内のバリアフリー環境 トイレ設備 入浴設備 個室の有無  
学習や遊びで利用する教材や道具 その他（ ）

## 児童通所支援施設の利用に関するアンケート調査票（資料P 43～P46）

### 4. サービスを利用する前段階（見学する前）に知りたかった情報を教えてください。（複数回答可）

#### （4）サービス内容

- 営業日 サービス提供時間 諸経費 日課 プログラム 療育の内容  
送迎の有無（選択した場合→送迎の範囲は気にしましたか？ はい いいえ）  
学習支援 宿題のサポート 季節の行事 食事の提供 おやつ提供  
その他（ ）

## 児童通所支援施設の利用に関するアンケート調査票（資料P 43～P46）

### 5.情報発信のあり方として好ましいものはどれですか？（複数回答可）

- 市など公共的な性質のホームページで事業所の情報が一括して得られる
- 事業所の情報が網羅された紙媒体の冊子があればよい
- 各事業所のホームページがもっと充実すればよい
- その他（      ）

### 6.障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信についてご意見・ご要望があれば自由に記入してください。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

## 本調査結果（資料P9～P32）

本調査から導き出されることは以下の3点に集約されたと考えました。

- ① 公共性の高いホームページには客観的事実に基づく情報（職員数や職員の保有資格、立地、営業日、諸経費など）を集約して、発信することが求められる。
- ② 紙媒体の冊子については、公共性の高いホームページと同様の情報を網羅する。もしくは利用を前提とした情報（事業所周辺の環境や送迎の有無、食事の提供、おやつ提供など）焦点化する。
- ③ 事業所ホームページに対しては本調査に基づいて利用希望者が必要としている情報を整理し、情報提供を行う。実際にホームページに掲載するかどうかは事業所の判断とする。



## 明石市における情報発信の方向性・手段の提言（資料P 33～P 34）

- ①障害福祉サービスの事業内容に関するデータベースの構築
- ②紙媒体による情報発信
- ③公共的な性質のホームページ等による情報発信
- ④評価および効果の検証

# 明石市における情報発信の方向性・手段の提言 (資料P 33~P 34)

## ②紙媒体による情報発信

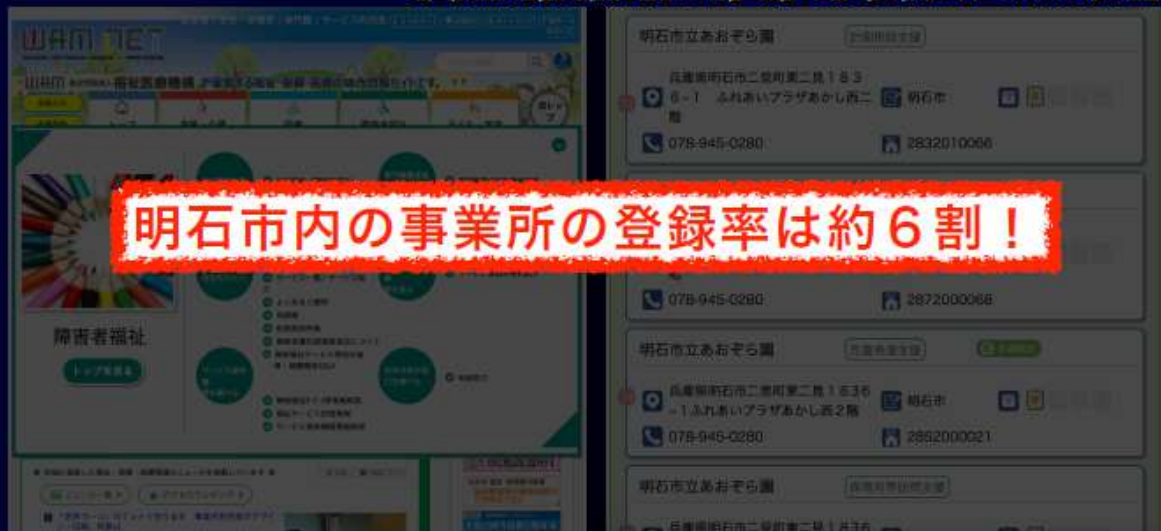
児童通所サービス等ガイドブック



# 明石市における情報発信の方向性・手段の提言 (資料P 33~P 34)

## ③公共的な性質のホームページ等による情報発信

独立行政法人福祉医療機構が運営する福祉・保健・医療の総合情報サイト「WAMNET」の画面



## 明石市における情報発信の方向性・手段の提言（資料P 33～P 34）

### 現在利用している事業所を知った理由（P 12）

役所から聞いて	233	27.0%
事業所ホームページ	216	24.9%
他の保護者	208	24.1%
相談支援専門員	179	20.6%
<b>あかし児童通所サービス等ガイドブック</b>	<b>142</b>	<b>16.5%</b>
事業所パンフレット	80	9.3%
その他	70	8.1%
通園通学中の園や学校の先生	68	7.7%
事業所の建物や看板	62	7.2%
かかりつけの医療機関	34	3.9%
<b>WAM NET</b>	<b>4</b>	<b>0.5%</b>

## 明石市における情報発信の方向性・手段の提言（資料P 33～P 34）

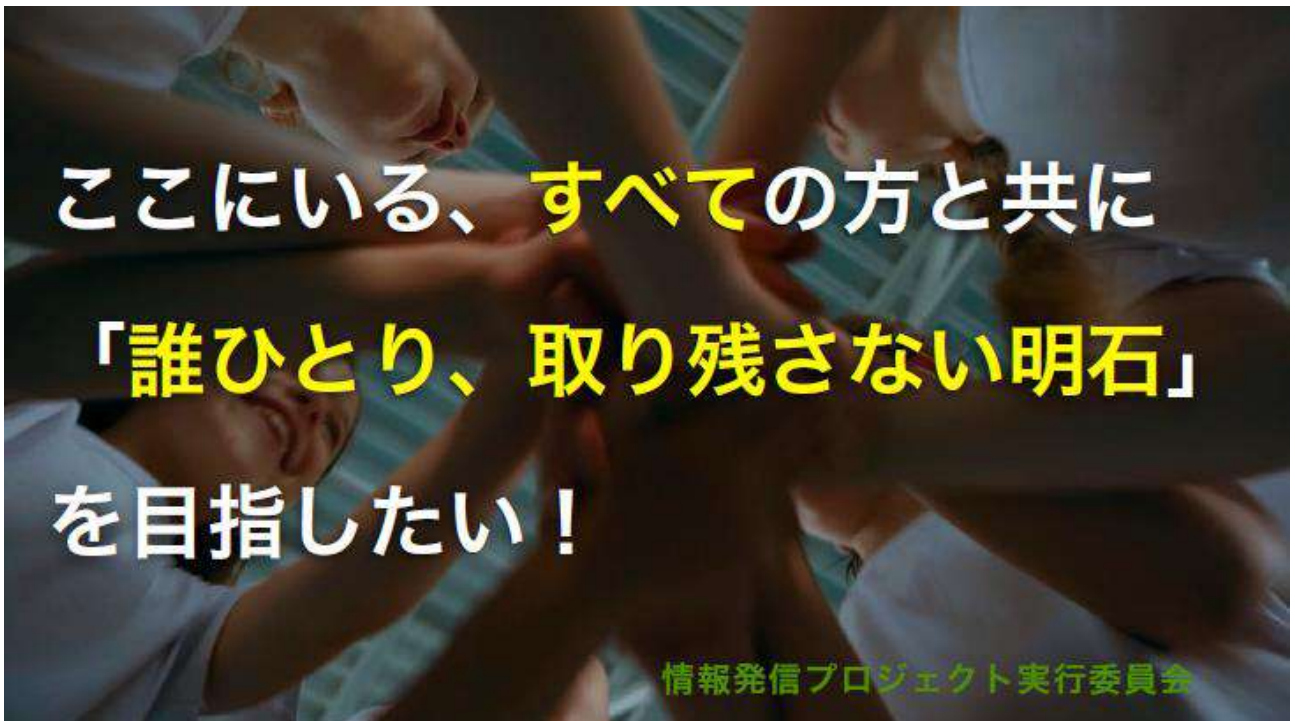
### 児童通所支援事業検索システム（仮称）

## 明石市の協力は必須！

運営主体

明石市児童発達支援センター（あおぞら園・ゆりかご園）

明石市地域自立支援協議会運営会議事務局





## 2. 相談支援連絡会（全 11 回）

相談支援専門員間のつながりを作るとともに、計画相談支援をはじめとする相談支援の実務を通じて把握した、①支援体制に関する課題、②既存の制度やサービスだけでは解決が困難な事象、③繰り返し起こっている類似の問題等を整理・集約し、協議・検討するとともに、優先的に解決すべき課題を選定したうえで運営会議へ報告しました。

### （1）令和4年度コアメンバー（敬称略）

団体・事業所等名	氏名
特定非営利活動法人居場所 相談支援事業所居場所	土屋 直美
株式会社うみのほし うみのほしウエスト相談支援事業所	畠山 貴文
社会福祉法人博由社 博由園相談支援事業所	伯井 亮允
社会福祉法人明桜会 相談支援事業所オアシス	奥村 真司
社会福祉法人三田谷治療教育院 明石市立あおぞら園 相談支援事業「そよかぜ」	小坂田 博美

### （2）協議内容等

	開催日	会場	参加者
第1回	4月27日（水）	総合福祉センター	32名
	個別のケース対応で「既存の制度や福祉サービスでは解決できない課題」「繰り返し起こっている課題」についてエピソードとともに報告することを確認した。		
第2回	5月25日（水）	オンライン	14名
	<p><b>1. 通学・通所をはじめとする移動に困難のある事例の報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多動で自傷他害がある。両親は共働きで送迎が難しい。障害福祉課と支援調整を行った結果、移動支援を使って通所できることとなった。</li> <li>・療育手帳 A/自閉症。突発的な飛び出し、自傷他害がある。グループホームに入居しており、近隣には保育所や小学校がある。生活介護の送迎車がグループホームから数分離れたバス停に来るが、本人が単独でバス停まで移動することは難しい。障害福祉課に相談のうえ、移動支援を利用して通所できることとなった。</li> <li>・療育手帳 A/自閉症スペクトラムの児童。本人が道端に座り込んだりするので家から通学バスのバス停に連れていく事が難しい。どうしてもバス停まで連れて行けない時は学校を休んでいる。移動支援が使えないか障害福祉課に相談したところ、「3か月間で支援調整を図って、その後の改善の見込みがないと決定を出せない」と言われた。結果、申請には至っていない。</li> <li>・送迎がない放課後等デイサービスを利用したい。現在は、母親が通学バスのバス停に本人を迎えに行き、そこから自転車で放デイの事業所に送っている。週2回の利用を考えたが、母親の負担が大きく週1回の利用となっている。</li> <li>・不登校で、主治医からデイケアの利用を勧められたが、本人は一人で移動することに不安がある。母親は精神疾患があり、祖母は高齢のため付き添うことが難</li> </ul>		

	<p>しい。移動支援の利用を考えたが、児童の移動支援は保護者の付き添いが必要で、移動支援を利用できず。結果デイケアに通所できていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頻度の少ない定期通院は、前もって障害福祉課に相談している。</li> </ul>		
第3回	6月22日(水)	オンライン	16名
	<p><b>1. 通所・通学をはじめとする移動に困難のある事例の報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労移行支援事業所まで送迎を担ってくれていた友人と疎遠になり、送迎を担ってくれる人がいなくなった。親は高齢で支援を得られず、本人も気分の落ち込みがあり事業所の利用は中止となった。(身体障害者手帳 1 級/小児麻痺(下肢全廃)/重度訪問介護利用)</li> <li>・視覚障害のため、単独での通所が難しい。両親が送迎していたが、高齢化に伴い送迎ができなくなった。支援調整を行い、移動支援を使って通所を継続することができるように支援した。(視覚障害/軽度知的障害/うつ症状)</li> <li>・家族が仕事の合間に自立訓練事業所まで送迎をしていたが、時間を割くことが難しくなってきた。障害福祉課に相談したが、「家族の協力があるのであれば、それを優先するように」との指示であった。結局今も家族が送迎を担っている。(高次脳機能障害/精神保健福祉手帳 2 級)</li> <li>・母親が仕事へ出かけるタイミングで移動支援のヘルパーに来てもらい、事業所の送迎時間まで散歩等をして時間潰しをしている。移動支援の大方の時間数をこの時間潰しに費やしてしまっている。(療育手帳 A/支援区分 6/自閉症/躁鬱/強度行動障害)</li> <li>・大声や車道への飛び出しがある。また、バス車内で大声を出したり、飛び跳ねたりしたことがあり、乗車禁止を言い渡されている。本人は、環境の変化に弱くこだわりが強いため通所先の変更は難しい。家族は仕事をしており送迎を担うことはできない。支援調整を行い、移動支援を利用して通所を継続できるよう支援した。(療育手帳 A、自閉症/強度行動障害)</li> </ul>		
第4回	7月21日(水)	総合福祉センター	12名
	<p>第2回、第3回で報告された課題の内容について、本当に移動支援を使うしかないのか、他の手立てはないのかを検討した。結果、報告のあったケースは他の手立てがないものがほとんどであった。保護者が高齢化、疾病、就労で送迎ができなくなった場合と本人の障害により自立の見込みが立たない場合は、支援調整ではなく、移動支援を利用できるようになればよいのではないかとこの意見でまとまった。</p>		
第5回	8月24日(水)	オンライン	10名
	<p><b>1. 「明石市移動支援ガイドライン」に対する意見</b></p> <p><b>【移動支援の対象とならない例①】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「移動支援事業者が発案・企画したイベント等への参加」とあるが、現在コロナ禍で外出の制限があるので事業所が企画したイベントも認めてほしい、事業所が呼び掛けることで、潜在的なニーズを顕在化させているので認めてほしい。</li> </ul> <p><b>【移動支援の対象とならない例②】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「競馬、競輪、競艇、パチンコ等のギャンブル」とあるが、公に認められているので、余暇で利用してもよいのではないかと。</li> </ul>		

	<p><b>【移動支援の対象とならない例③】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校・中学校に通う児童が、テーマパークや市外への買い物・イベント等へ参加する際の付き添い」とあるが、中学生位なら、近隣市へ出かけることもあるのではないかと。市境の児童も同じ運用になるのか。</li> </ul> <p><b>【移動支援の対象とならない例④】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「障害福祉サービス事業所・児童通所サービス事業所等への送迎利用」とあるが、保護者の高齢化、就労、病気で送迎が困難なケースがある。また、障害の特性により事業所の送迎車を利用することが難しいケースがある。</li> </ul> <p><b>【グループ支援について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「身体介護ありで支給決定が出ている場合、グループ支援は利用できません」とあるが、重度の障害者はグループで外出できないことになる。皆と行くから楽しいという声もある。</li> </ul>		
	9月28日(水)	オンライン	11名
第6回	<p>1. 「明石市移動支援ガイドライン」に対する意見集約</p> <p><b>【「移動支援」の事業目的・内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「原則」と書かれているので、幅を持たせてくれているように感じるが、1泊旅行に行きたい場合に移動支援は利用できるのか。</li> </ul> <p><b>【移動支援の対象とならない例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「事業の実施主体や保護者による送迎を原則としているため」対象とならないとなっているが、保護者が高齢化し送迎が難しくなったケースがある。本人が通い兼ねた事業所に通所できるよう、保護者が高齢化した場合は、期限を区切らず移動支援の利用を認めてもらえないか。</li> <li>・聴覚過敏・他害行為があるため、複数で乗り合わせる送迎車を利用することが難しいケースがある。障害特性により短期間での改善が見込めない場合は、期限を区切らず移動支援の利用を認めてもらえないか。</li> </ul> <p><b>【13. その他留意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体介護ありで着替えの支援が必要なケース。プールにはリフトを使って入水。入水時間は20～30分。プールに入っている時間は算定できないのでヘルパーが見つからない。柔軟な支給決定はできないか。</li> </ul> <p><b>【ショートステイ利用時の移動支援について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショートステイ先には送迎がなく、保護者も送迎を担えないためサービス利用に繋がらないケースがある。特に児童のショートステイ先は市外になることが多く、送迎が課題になることが度々ある。ショートステイの送迎に移動支援の利用を認められないか。また、ショートステイ先から生活介護や就労継続支援B型を利用する際の送迎に移動支援を使うことができれば、本人の生活の安定に繋がるケースがある。</li> </ul>		
第	10月26日(水)	オンライン	14名
	<p>1. 「明石市移動支援ガイドライン」に対する意見集約</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動支援の対象者を確認してほしい。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「その人が本来移動できる範囲」とは何か。根拠を知りたい。</li> <li>・支援調整の際の期限について、何か月が基準なのか教えてほしい。</li> </ul> <p><b>(移動支援の対象となる外出、対象とならない外出)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者や施設から、イベントの呼びかけを行ってほしいという意見がでた場合、事業者から呼び掛けてもらってもよいか。</li> <li>・事業所が企画したイベントの呼びかけに対し、グループ支援が使えるとよい。「一人でヘルパーと外出は寂しいが、皆と一緒に楽しめたい」との意見を聞くことがある。</li> <li>・車を利用した外出のニーズが高い。車窓から景色を見ることで落ち着く人もいるし、ADL が低下し、バス停まで歩くことが難しくなった人もいる。規定どおり運転手とヘルパーを派遣できる事業所はほとんどないので、もう少し柔軟な対応を希望したい。</li> <li>・「通年かつ長期が認められない」ということは、障害者の趣味（例えば、毎週ジムに行く、習い事に行く）の保証がされないということか。</li> <li>・出勤前後に買い物や余暇に出かけることは一般的にあることだと思うので、通所の前後にも余暇活動で移動支援が使えないだろうか。</li> <li>・親が高齢化により通所や短期入所の送迎が難しくなった時は、移動支援が使えるようにならないか。</li> </ul> <p><b>(児童)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学で、両親の存在が刺激になり行き渋りや、道中動かなくなる子どもがいる。保護者以外の支援者が対応することで、本人の行動が改善されるのではないかと見立てているが、児童の移動支援には保護者の同伴が必要であったり、期間限定の縛りがあったりして使いにくい現状がある。</li> <li>・市からは、児童の移動支援は散歩程度との指示があったが、児童にも余暇活動の機会が必要ではないか。</li> <li>・児童の保護者同伴という条件は利用しづらい。</li> <li>・市境に居住する児童も市外の外出は対象外ということなのか知りたい。</li> </ul>		
第8回	11月16日(水)	オンライン	14名
第9回	12月21日(水)	総合福祉センター	15名
第10回	2月22日(水)	市立総合福祉センター	14名
	<p><b>1. 三田市相談支援事業所連絡会視察報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会の流れは、「社会資源紹介」「新規事業所自己紹介」「障害福祉課からの報告」「情報交換・共有」であった。</li> <li>・市内の相談支援事業所の相談員全員と行政が参加している。</li> <li>・地域課題については、連絡会に毎回障害福祉課が参加しているので行政と課題を共有しやすいとの話があった。</li> <li>・資源の創出や改善については、移動支援のガイドブックの改訂を行ったり、障</li> </ul>		

	害の有無にかかわらず人と交われる居場所「ゆるり」を定期的を開催している。		
	3月22日(水)	市立総合福祉センター	13名
第 1 1 回	<b>1. 垂水区地域自立支援協議会「らいぶ」視察報告</b> ・相談支援事業所以外に、行政、社協、医療、居宅事業所が参加している。 ・地域課題の抽出については、「らいぶワークシート」という専用の用紙に相談員が「支援で悩んでいる事」「課題」「課題のカテゴリー」を記入し、事例検討を行っている。 ・資源の創出や改善の例はないが、神戸市の地域自立支援協議会に課題を提出している。 ・事務局としては、関係性作りや情報交換・共有の場になることを意識している。		
	<b>2. 情報交換・情報共有</b> ・男性ヘルパーのいる事業所を教えてください。女性ヘルパーでは対応が難しい体大きい多動の男性に対応してくれる男性ヘルパーを探しているが、なかなかみつからない。 →参加者より、複数個所の事業所紹介があった。 ②支援調整の書類作成について、なかなか書類が受理されない。 →どうしてもそのサービスや時間数が必要な理由、非代替性、一時性、切迫性を記載したらどうか。		

(以下、余白)

### 3. サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者連絡会（全5回）

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者間のつながりを作り、指定障害福祉サービス事業所間の連携強化に取り組むほか、サービス管理責任者等の業務についての意見交換、実践報告、相互学習等に取り組みました。

#### （1）令和4年度コアメンバー（敬称略）

団体・事業所等名	氏名
社会福祉法人明桜会 木の根学園	宮崎 泰生
特定非営利活動法人こぐまくらぶ	福井 美鈴
特定非営利活動法人マーチング みちくさ本舗	長尾 拓也
社会福祉法人すいせい 一体型 JoBridge・CAST ビジネスアカデミー・Entry	大谷 晃司
社会福祉法人三田谷治療教育園 明石市立児童発達支援センターあおぞら園	大向 正展

#### （2）協議内容等

	開催日	会場	参加者
	6月17日（金）	総合福祉センター新館	8名
第1回	<p><b>1. 連絡会の開催目的等の確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月18日（金）勤労福祉会館第4・5会議室で開催する。</li> <li>・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者のつながりづくり、指定障害福祉サービス事業所間の連携体制の強化（業種を超えたつながり）を目的とする。</li> <li>・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者が孤立しないよう、「元気になってもらうこと」「共有」と「学び」をテーマとする。</li> <li>・理想に近づけるように、気づき、専門力の向上なども視野に入れる。</li> </ul> <p><b>2. 連絡会の内容等についての検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進事例を共有する。</li> <li>・分野を問わず、個別支援計画の内容や支援のアプローチなども含めた内容とする。</li> <li>・職員の育成や支援が課題と感じている。そういうことを聞けたらありがたい。</li> <li>・当事者のディスカッション。家族の声を聴くのもよい。</li> <li>・福祉サービスの事業所は地域との関係性をどう考えるべきか？</li> <li>・地域・住民から障害福祉サービス事業所への期待を知る。（児童と成人は求められていることが違うかもしれないが）</li> <li>・サビ児管に求められていること など</li> </ul>		
第2回	7月15日（金）	木の根学園	6名
	<p><b>1. 連絡会の内容等についての検討（午前）実践報告</b></p>		

	<p>・地域貢献に関する取り組みについて、社会福祉法人すいせいより、cafeiiyo の取り組みを中心に報告を依頼する。あわせて人材育成について、社会福祉法人明桜会より報告する。なお報告はサビ児管の視点から報告をしていただく。</p> <p>(午後) コアメンバーによるパネルディスカッション</p> <p>・サビ児管の業務内容、求められていることと現実のギャップ、サビ管のあるべき姿、人材育成、苦労や失敗、楽しさなどを共有する。あわせて、名刺交換とテーマに沿ったグループワークを行う。</p>		
第3回	9月16日(金)	総合福祉センター新館	7名
	<p>1. 連絡会の内容等についての検討</p> <p><b>第1部：実践報告</b> 講師は、社会福祉法人すいせい 高木氏、②社会福祉法人明桜会 谷一氏で確定する。</p> <p><b>第2部：ディスカッション(宮崎氏の資料に基づく)</b> サービス管理責任者に求められることの共有、サービス管理責任者業務の難しさ、連携のあり方等をテーマとする。</p> <p><b>第3部：意見交換会(グループワーク)</b> 楽しく話せているかを介入の判断基準とする。</p>		
第4回	11月18日(金)	勤労福祉会館第4・5会議室	81名
	<p><b>第1回サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者連絡会(全体会)</b> サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 81名のほか、くらし、しごと、こども部会長および障害福祉課ならびに協議会関係者を含めて会場に約100名程度が参加した。</p>		
第5回	1月13日(金)	総合福祉センター新館	7名
	<p>1. 連絡会の振り返り(アンケート結果を踏まえて)</p> <p>(1) 実践報告について</p> <p>・「こうやっていったらいいんや」という参考と、共感できる部分があった。こんなことをしてるんや」ということを知れた。他事業所の計画作成のプロセスなど聞く機会がない。次回は、児童分野の話もあれば良かったと思う。</p> <p>・谷一さんの話は「わかる」と共感した。高木さんの話は、レベルが高くて「すごいな」と思い、実際にできていることに感嘆した。(ただし、サビ管の立場でできるか?法人のスタンスにもよるのではないか)</p> <p>・実践報告を聞くことで、良い意味で自分の所との差を感じてくれる。それを受けて、昼からに入る。意見交換の材料にもなる。谷一さんの報告は当たり前のことと思っていたが、個別支援計画のことを知りたかったのだと感じた。アセスメントという単語が良く出てくる。アセスメントとニーズ整理が基本となる。1つのテーマになる。</p> <p>・地域とのつながりが必要というのがあるのかもしれないが、児童の方はなかなか難しい。具体例が知ればよい。サビ管の立場からできる地域とのつながりづくりというのは知りたい。</p> <p>・高木さんの話で取り組みは伝わったと思うが、サビ管の業務としては伝わったかと思った。もう少し、サビ管業務にフォーカスしてもよかった。実際に困って</p>		

いるのは、支援計画の作り込みなどではないかと思う。そういった面で学びがあればよい。

・ボリュウム、時間配分＝テーマが2つなら45分が適当、バランスが良い。これに加えるならもう少し時間を短くせざるを得ない。あつという間なので集中して聴けた。ちょうどいい。2人とも話がうまかった。長すぎず、短すぎずよい。

### (2) パネルディスカッションについて

・宮崎さんがうまく仕切ってくれた。考えていたことと、その場で話したことは変わった。そんなすごい話はできないけど、アンケートには共感という言葉がたくさん出てきている。そう感じてくれたのならよかった。

・良い体験ができた。怖くて会場が見れなかった。心が折れてしまう。宮崎さんを見て安心していた。感想を見てうれしく思う。やってよかった。

・こども部会長がいたので緊張して変なことを言えないと思った。宮崎さんがうまくまとめてくれてよかった。なぜこれをやるのか、法人の理念などを前夜に読み返した。話をする準備をするのが勉強になった。共感してもらえてよかった。

・すごく緊張した。その場を楽しもうと思った。皆さん熱心に聞いてくれた。神戸の研修とは温度感が違った。明石は熱いと思った。その中で話せたのはよかった。伝えたいことがうまく伝わったかは疑問。まとめる作業がしんどかった。でも、宮崎さんが助けてくれた。それがあつてのディスカッションだと思った。共感してもらえたのはよかった。

・何個かの項目を答えてもらう形にしたが、もう少し余裕をもって1つのことをじっくり話したかったのではなかったかと反省している。

・あれくらいでよかった。いろいろある方が、聞いている方も良かったのではないかな。事例的なことまで話すとオーバーする、でも事例的なことを話さないで中身がどうだったのかと思う。でも長ければ間延びはするのではないかと思う。テンポは心地良かった。

・言うことが決まっていたのでシナリオが描けてよかった。聞きたかったことが網羅できたのかはわからない。

・やはり参加者が聞きたいことは取り上げるべきだろう。

・サビ児管と相談支援専門員の連携や個別支援計画とサービス等利用計画の連動または人材育成（大規模～中規模と小規模事業所の実践など）などを次回のテーマとして検討する。

### (3) 意見交換会について

・もっと話し合う機会を必要としていることがわかった。普段は利用者の話を聴いているが、自分のことを話す場がないのだと思う。

・聞いてくれる人がいるというのが良い雰囲気を作っていた。

・安心してよく話してくれていた。分野関係なく。分野を超えて相談をしていた。職員とのかかわり方など。こんなに話が盛り上がるのかと思った。

## 2. 次年度計画について

### (1) 連絡会の内容・開催頻度・開催時期等

・開催形態は、顔を合わせることを重視して対面とする。

・開催時期は、サビ児管の法定研修等を勘案して11月に開催とする。(12月～3月



は更新研修等がある)

・終日開催とする。(終日を支持する意見：思ったより帰った人が少なかった。半日なら時間がしっかり取れない。半日抜ける方がしんどい。半日だと仕事がよぎる。現場を離れられるようにしてあげたい。休憩などちょっとした間に参加者同士が話せるなど)

**(2) コアメンバー会議の開催頻度・開催時期等**

・2か月に1回程度の開催とする。

**(3) コアメンバーの追加**

・特に若い世代で意欲のある人にはどんどん参加してもらおう。新しい風を入れてみるのはよい。

・サービス種別的に放課後等デイサービスの児発管を迎えたい。男女比を勘案して女性のメンバーを迎えたい。

・コアメンバーを2名追加することを決定した。JS ブリッジ（就労継続支援 B 型）の山下サービス管理責任者および feel 大久保（放課後等デイサービス）の山下児童発達支援管理責任者にコアメンバー就任を依頼して了解を得た。

(以下、余白)

## 専門部会

障害者・児の福祉について必要な事項を協議するほか、さまざまな所（場所、拠点、機会）に、さまざまな形（テーマ・プログラム）で人が集まる「場（ワーキング）」を設置し、“つながり”づくりを促進するとともに、地域の課題を解決するための試行的な活動にも取り組みました。

## 4. 暮らし部会

### （1）令和4年度委員体制（敬称略）

団体・事業所等名	氏名
社会福祉法人博由社 障害者支援施設 博由園	賀部 大輔
特定非営利活動法人 きぼうの空 障害福祉サービス事業所 にじの空	山崎 信吾
社会福祉法人明桜会 やまゆりの家	伊丹 修
株式会社ユーアイ ファミリーケア友愛	小林 律子
特定非営利活動法人 こぐまくらぶ	福井 美鈴
株式会社エルダリーケアサービス あじさいのもり明石	原 泰久
医療法人社団正仁会 明石土山病院	榎本 純子
医療法人東峰会 関西青少年サナトリウム	北代 彩
明石市福祉局生活支援室障害福祉課	本多 伊佐子
社会福祉法人明石市社会福祉協議会 地域支援課	二宮 圭司
社会福祉法人明石市社会福祉協議会 明石市基幹相談支援センター	足立 麻子

### （2）総括（賀部部会長）

令和4年度の暮らし部会を振り返るとコロナ禍が続く中、テーマ毎に立ち上げたワーキングチームの活動をオンラインによる会議などで続行し、現状における解決すべき課題を明確にすることとそれに対する具体的な取り組み内容を実行に移すべく活動を続けてきました。

「ハートふるあかし」では、兵庫県立大学の協力を得て精神障害に関する理解を促進するための教材を開発し、地区社会福祉協議会に出向き地域の方々に講義を行うことが出来ました。精神障害を知ってもらう機会や自身の心の健康のためにもこの一步を足掛かりに「精神障害」＝「とっつきにくい」というイメージを緩和させていければと考えています。

「すまいの会」では、グループホームに焦点をあて当事者や家族が将来の生活を考えた

ときにグループホームのより良い運用方法などが可能となるように周知活動の拡充や体験利用方法の緩和などを取り組み課題として活動を続けていくことを考えています。

「ヘルパーのつどい」では、人材不足が顕著になっているという課題に直面しており、ヘルパーがいないからサービスの利用が出来ない又は事業所の休止や廃止という話も聞かれています。障害児者及びその家族の地域生活を支えていく上で重要な社会資源となっているヘルパーサービスの安定した提供に人材不足という理由で黄色信号が灯っています。この人材不足という課題はヘルパーに限らず福祉業界全体に関係するものであり、くらし部会としてはサービスの利用を希望している方に直接影響が出る問題と捉えています。

新型コロナの類型が2類相当から5類になることで、くらし部会としてはコロナ禍以前のように活発な活動を取り戻すことと人材不足という大きな課題に対して「福祉の魅力」を学生や地域住民の方々に伝えていくことが今後の大きな取組みになるという思いで、来年度も活動をしていきたいと思えます。引き続き皆様のご協力とご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

### (3) 活動目的

明石市障害者計画及び明石市障害福祉計画・明石市障害児福祉計画の基本理念を踏まえて、「誰もが安心していきいきと暮らせる支えあいによる共生のまちづくり」の実現を目指します。

### (4) 活動方針

1人ひとりの「誰と、どこで、どういう暮らしをしたいのか」という意思が尊重され、希望する生活が実現されるよう、①支援体制に関する課題、②既存の制度やサービスだけでは解決が困難な事象、③繰り返し起こっている類似の問題等を整理・集約し、協議・検討するとともに、優先的に解決すべき課題を選定したうえで運営会議へ報告します。

### (5) 本会議（全4回）

	開催日	会場	参加者
第1回	6月15日（水）	オンライン	10名
	・令和3年度専門部会等活動報告ならびに令和4年度くらし部会活動計画（案）およびくらし部会委員名簿（案）について全会一致で承認した。		
第2回	8月2日（火）	オンライン	11名
	・新任委員を迎え、新体制で今年度の活動計画（案）について共有した。 ・各ワーキンググループ、福祉学習推進プロジェクトより進捗状況を報告。 ・住まいの選択肢とグループホームの体験利用について意見交換		
第3回	11月22日（火）	博由園	6名
	・部会長より、第2回運営会議での「グループホームを知る機会の拡充と体験利用の運用改善について」の課題提起と意見交換について報告した。本入居前提ではない体験利用について、体験利用先が調整済であれば支給決定可との回答を障害福祉課より得た旨を共有。相談支援専門員、グループホーム関係者との共有や周		

	<p>知のための取組や、気軽に体験できる環境整備の必要性、体験利用時の手続きの簡素化等について意見交換した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各ワーキンググループの活動について進捗状況を共有した。すまいの会より、グループホームの周知に関するシンポジウム開催案があるとの報告があった。</li> <li>・福祉学習推進プロジェクト（知的障害）の進捗状況を共有した。現在学習コンテンツについて協議中。次回プロジェクトにて、「知的障害の理解」について各メンバーの案を発表する予定。</li> <li>・利用者に必要な情報発信について引き続き検討が必要との意見で一致した。</li> <li>・事務局より、次回運営会議の協議・検討事項（相談支援連絡会より移動支援のガイドラインに関する疑義照会、しごと部会からB型利用者の就労支援の報告）について説明した。</li> </ul>		
	3月15日（水）	博由園	10名
第4回	<p><b>1. 各ワーキンググループの進捗状況</b></p> <p><b>(1) ハートフルあかし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害福祉学習プロジェクトの活動について、大久保小地区社協にて成人向け、藤江小地区社協にて児童向けプログラムについて実施報告があった。</li> </ul> <p><b>(2) ヘルパーのつどい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問時の駐車場確保に関して、魚住地区でヘルパー用のスペースを確保しているとの情報提供があり、他の地区でも同様の取組ができないかとの提案があった。相談支援専門員等を含め、駐車場の確保は在宅支援の要であり、次年度以降も継続して協議することとした。</li> </ul> <p><b>(3) 生活介護事業者連絡会およびすまいの会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度はネットワーク強化のため、各事業所への参加勧奨に取り組む。</li> </ul> <p><b>2. 次年度の委員体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異動等に伴う、一部委員の変更があることを報告。原委員及び伊丹委員が異動により退任。原委員の後任職員について事務局から確認予定。伊丹委員の後任は吉田氏（やまゆりの家）を予定。委員の変更については、原則として旧委員の所属機関から新委員を派遣頂くことを確認した。</li> </ul>		

## (6) ワーキング

### ① ハートふるあかし（全5回）

精神医療保健福祉領域のつながりを作り、精神障害者への支援における課題の抽出に取り組むほか、障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修の企画運営ならびに精神障害の理解を促進するための福祉学習の試行的実施および効果検証に取り組みました。

	開催日	会場	参加者
第1回	7月28日（木）	兵庫県立大学	20名
	福祉学習推進プロジェクト（精神障害）大人向けバージョンのプログラム体験とプログラムに対する意見交換を行った。		
第2回	9月28日（水）	オンライン（Zoom）	9名
	・新型コロナ感染症の第7波による各機関、各事業所の業務への影響について共有した。また、精神科医療機関への問い合わせや患者数増加の背景には、コロナ		

	<p>禍による孤立、孤独があるのではないかとの意見を共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉学習の実施計画について、10月29日に大久保小地区社協にて成人向けプログラムを実施予定であるほか、藤江小地区社協の福祉スクールでの実施依頼があることを共有した。</li> <li>・障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修については、新型コロナの感染状況が落ち着きつつあり、研修機会を提供した方が良いとの意見で一致した。</li> <li>・既存コンテンツをオンライン・オンデマンドで実施することは困難と判断し、研修コンテンツ自体の見直しを次回WGにて協議することを決定した。</li> </ul>		
第3回	10月29日(土)	大久保小コミセン	39名
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大久保小地区社協及び自治会役員(まちづくり協議会)所属の25名に対して、福祉学習「一から学ぶところの病～自分や大切な人のために～」を実施した。参加者は、40代以下から80代以上まで幅広い年齢層であった。</li> <li>・前半の心理教育は関西青少年サナトリュームの北代精神保健福祉士、後半の予防教育は兵庫県立大学の川田先生らが講義・演習を担当した。演習では、グループで話す時間が複数回設けられ、各グループに兵庫県立大学の学生、教員が入り、活発な意見交換ができていた。</li> <li>・プログラム終了後アンケートを実施(18名回答)、本プログラムに対して概ね良い評価が得られた。</li> </ul>		
第4回	11月30日(水)	オンライン	8名
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修プログラムについて、各メンバーのプログラム案に沿って内容を協議した。障害福祉サービスの従事者が知りたい精神障害に関する疑問について、アンケート調査を実施して、今年度はニーズ調査を行い、次年度に調査結果を踏まえた内容検討をすることとした。</li> </ul>		
第5回	3月11日(土)	藤江小コミセン	25名
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤江小学校地区社協主催の子ども福祉サークルにて12名の児童(幼稚園～小学5年生)に対して、福祉学習「自分のところを知ろう」(子供向け)を実施した。</li> <li>・児童を3グループに分け、前半はグループごとに積み木を高く積むゲームに参加し、後半はゲーム中に感じた自身の気持ちを振り返り、また、困りごと、悩みごとがあった際の対処法について考えるワークを実施した。</li> </ul>		

## ② ヘルパーのつどい(全4回)

居宅介護系事業所間のつながりを作り、居宅介護系サービスの提供に関する課題の抽出に取り組むほか、介護技術等の向上を目的として、ホームヘルパーを対象とした「介護技術リスクマネジメント研修」の企画運営に取り組みました。

	開催日	会場	参加者
第1回	5月16日(月)	オンライン	8名
	各事業所の報告(サービス調整関連、ヘルパーの採用及び人事管理)と課題に対する解決方法を協議した。		
第2回	9月26日(月)	オンライン	13名
	<b>介護技術リスクマネジメント研修(テーマ:自殺対策ゲートキーパー研修)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師にNPO法人ゲートキーパー支援センター竹内志津香氏、香川裕美氏を招き、自殺の要因や危機介入のための4つのステップを講義と演習で学んだ。</li> </ul>		

第3回	1月16日(月)	オンライン	7名
	<p>・各事業所の報告(人材確保、人員管理、ヘルパー高齢化による提供可能なサービスの制限)と課題に対する解決方法を協議した。各事業所とも、明石市の介護福祉士の資格取得の助成制度を活用していること、商業高校の福祉学科創設によるヘルパー(介護福祉士)の確保については、施設系サービスに就職する人が大半で、訪問系への就職には繋がらないのではないかと意見であった。</p> <p>・現在、管理者やサービス提供責任者が社外で繋がることはあまり無く、業務の比較対象を得ることや求められるサービス提供責任者像を共有することが難しく、またサービス提供責任者の多くが、社命により業務に就いているが、業務を理解せず携わっている人が多いなどの課題を共有した。</p> <p>・事務局より、サビ児管連絡会の実施状況について報告した。サービス提供責任者の連絡会を開催することについて協議し、ニーズ調査を行うことを決定した。事務局で調査票を作成して年度内に調査を実施する方向で検討した。</p>		
第4回	3月27日(月)	オンライン	8名
	<p>サービス提供責任者向け実態調査について協議した。サービス提供責任者によって、学びやつながりに対する意識に差異はあると思われるが、業務の多忙さ、会社の方針、事業所内の情報をどこまで話せるかといった不安など、参加を阻害する要因を取り除かなければ、参加者が少ないのではないかと。</p> <p>・くらし部会の各ワーキンググループは職種を問わず自由参加としているが、そのことが周知されていないため、周知及び参加の勧奨が必要である。</p> <p>・本ワーキンググループを立ち上げた時とは居宅介護を取り巻く状況が変わってきている。サービス提供責任者の集まりに留まらず、活動の意義や目的を再検討する時期なのではないかと。</p> <p>・上記の協議を踏まえ、サービス提供責任者を対象に実態及び意向調査を実施し、その結果を踏まえ、本ワーキンググループの今後の活動内容を検討することとした。調査票を共有した後、市内事業所に発送する。</p>		

### ③ すまいの会(全2回)

障害者支援施設、宿泊型自立訓練施設、共同生活援助事業所間のつながりを作り、居住系サービスの提供に関する課題の抽出に取り組むほか、グループホームの体験入居制度の拡充およびグループホームから単身生活への移行を支える仕組みづくりについて協議しました。

	開催日	会場	参加者
第1回	6月15日(水)	オンライン	12名
	<p>やまゆりの家 吉田管理者、伊丹サービス管理責任者より、社会福祉法人明桜会が考える一般的なライフステージによる暮らしの変化、障害者の暮らしの現状(親・支援者が決めた住まいでの暮らし)、目指す未来(障害があっても、経験や体験を経て本人の選んだ住まいで暮らす!)について報告があった。その後、グループホームのあり方等について協議した。</p> <p>(主要な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホームの入居にあたり、本人の意思確認が不十分なまま、家族や支援者の意向によって決まってしまう現状がある。「どこで誰と暮らすか」という権利が守られていない、尊重されていない。</li> <li>・在宅生活が困難になった時、支援が難しくなった時、切羽詰まってどうしよう</li> </ul>		

	<p>もなくなった時にグループホームを探すのが一般的である。ごく一部は早めに探す人もいる。障害のある人の家族は、元気なうちは自分たちが面倒を見るという考え方がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしの選択肢はいろいろあるはずだが、本人や家族が知らない。相談員や各事業所の職員が、そういう話をできているのかも定かでない。暮らしの選択肢に関する情報は非常に少ない。イメージすることが苦手な人が多いので、イメージづくりをする支援が必要だと思う。通所施設の支援の一つとして、グループホームの見学などを支援して欲しい。</li> <li>・地域生活支援拠点の中に体験の機会の場を作ろうというものがある。ほとんどの県がやっているとなっている。しかし、入所施設のショートステイでやっていることになっている。これでは入所施設をイメージすることはできても、グループホームや一人暮らしのイメージにはつながらない。入所施設はもう1回行きたいと思う環境ではないと思う。大半は、それほど好んで来ている人はいない。何の体験になっているのか？</li> <li>・グループホームに入居した後は、生活の質をあげていく支援に取り組んでいく。そこは、すごく取り組んでいる。そこから、より良い場所に行くということは考えられていないのではないか。一定数は、次のステージに行きたい人もいる。安定はしているけど、満足していない人はいる。もう少し別の暮らしがしてみたい。しかし、想像できるのは家族と一緒に暮らしていたことだけ。だから、それ以外の選択肢が浮かばない。そこをやっていきたい。保護者は失敗を恐れて、乗ってこない。本人も不安。食事は、風呂は・・・、仕事は行けるかなど。今の生活で良いということになっていく。</li> <li>・グループホームが終の棲家という人もいるので、支援が負担にならないよう、見極めも必要である。安定を望む人にはそこを極めていく。</li> </ul>		
第2回	11月24日(木)	博由園	8名
	<p>部会長より、第2回運営会議にて「グループホームを知る機会の拡充と体験利用の運用改善について」提言を行い、意見交換を行ったことを報告した。今後の活動について、グループホームを知る機会となるようなフォーラムの開催について協議した。</p> <p><b>(主要な意見)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の権利に関する条約19条について再度考え、支援者や家族の管理下であることが権利侵害との認識をもつこと、本人が住まいの場を選択する権利について考える機会が必要。</li> <li>・より若い年代のうちに自宅外で泊まる体験が必要。</li> <li>・グループホームの周知活動に向け、他のワーキングや相談支援専門員にも参加促進するなど、ワーキングを横断した形での活動が出来ればよい。</li> <li>・グループホーム、地域で暮らす権利を当事者、行政に伝える場を設けるため、準備を進めていくとの方針を決定。</li> </ul>		

#### ④ 生活介護事業者連絡会 (全1回)

生活介護事業所間のつながりを作り、生活介護のサービス提供に関する課題の抽出に取り組みました。

	開催日	会場	参加者
第1回	1月23日(月)	市立総合福祉センター	8名
	<p>各事業所より、コロナ禍による活動制限があったこと、コロナ禍前の活動再開に向けた計画を立てていると報告があった。次に、事務局より、生活介護事業所数について、明石市は現在20か所、加古川市は26か所、稲美町は2か所、播磨町は4か所、高砂市は8か所が設置されていることを報告した。比較的最近設置された市内事業所について、事務局でも情報を把握していないため、情報収集が必要なことを報告した。あわせて、事業運営の課題について意見交換を行った。</p> <p><b>(BCPの取組状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み状況は事業所により様々だが、事業所規模により、進捗状況や災害発生時の活動に影響があるのではないかとの意見があった。今後自治会の防災訓練に参加し、災害発生時に支援してもらえよう関係づくりを試みたいとの意見や、小規模事業所では職員数が少なく、一人の職員が複数の役割を担う等、実行に限界があるとの意見も出された。</li> </ul> <p><b>(個別支援における保護者の意向と支援目標について)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所側と保護者側では、利用者の能力評価に差異があること、個別支援計画の評価時に、保護者と面談し、事業所での様子や現状を伝えているという意見、加齢に伴う本人の変化を受容出来ない保護者に対して、比較的達成しやすい小さいゴールを設定し、理解を促している等の取組を共有。</li> </ul> <p><b>(送迎対応)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所共に負担が大きいとの意見。送迎範囲を市内限定にしている所としていない所があること、ドライバーの確保に苦慮することが多く、公募ではなく、既存職員の紹介などで確保していることも多い。事業所の負担軽減のため、市内事業所での共同運行が出来ないかとの意見が出されたが、拠点送迎ではバス停までの移動に課題がある利用者もいるため、実施が難しいのではないかとの意見が出された。</li> </ul>		

### ⑤ 福祉学習推進プロジェクト(全6回)

知的障害の正しい理解を促進するための教材開発に取り組むほか、福祉学習の受講者に対する“障害福祉サービス事業所を拠点とした住民との交流を促進するモデル事業”について検討を進めました。

	開催日	会場	参加者
第1回	5月12日(木)	木の根学園	9名
	福祉学習の教材づくりに向けて、三田市が実施している福祉学習の実演を見学することを決定した。		
第2回	7月14日(木)	木の根学園	10名
	プログラムの内容を協議した。障害福祉サービスの利用者が参加できる方法を模索した。例として絵本の読み聞かせ(当事者と直接触れ合う機会)や動画(日常生活の様子を映すことで特性理解を促す)などの案が出された。		
第3回	9月8日(木)	木の根学園	8名
	さんだ知的障害啓発隊「はぁ〜とポケット」の実演を見学した。		
第4回	11月14日(月)	木の根学園	6名
	一般の人が知的障害を知ろうとするきっかけをつくる教材開発を行うことを確認		



	した。地区社協での実施を想定し、成人向け、1回あたり45分～60分のプログラムを前提に、動画等を含めたコンテンツの作成を検討する。導入部分のプレゼンテーションについて、各メンバーが次回プロジェクトで案を出すこととした。		
第5回	1月12日(木)	木の根学園	8名
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉学習の導入部分について、各メンバーが考案したプログラムについての説明があった。各プレゼンテーションを集約すると、知的障害の定義や特性、特性による具体的なエピソードや当事者の生活状況を伝える動画、障害の疑似体験、当事者との交流機会などの共通点が見られた。</li> <li>・プレゼンテーションを踏まえて、福祉学習の実施場所や交流方法について協議した。実施場所は各メンバーの所属事業所を含む市内事業所や、市民向けに開放されているコミュニティスペースなどの貸室、交流方法は、ゲーム大会、ピクニック、運動会などの意見が出された。</li> <li>・障害に関する普及啓発の活動は、関係者(家族や支援者)が集まりやすい傾向にあるが、本来はそれ以外の一般市民に参加してもらうことが必要。実施の工夫として、学習機会と交流機会を分けること、1回ではなく複数回、継続的に実施することで理解が得られるのではないかと意見が共有した。</li> </ul>		
第6回	3月12日(木)	木の根学園	7名
	知的障害を理解するための教材「知ることからはじめよう!」の集約作業を実施した。プログラムは教材を用いた座学とワークショップ形式で行うこととし、ワークショップの内容を検討した。困っている人やコミュニケーションがとりづらい人と関わるうえで、相手の思いを押し量り、理解しようとする姿勢をもつことに気づいてもらうものとして、ジェスチャーゲームを考案した。次回プロジェクトで試行的に実施する。		

#### 令和4年度コアメンバー(順不同・敬称略)

団体・事業所等名	氏名
特定非営利活動法人きぼうの空 障害福祉サービス事業所にじの空	山崎 信吾
社会福祉法人明石市社会福祉協議会 地域支援課	山形 匡則
社会福祉法人明桜会 やまゆりの家	伊丹 修
社会福祉法人明桜会 障害者支援施設大地の家	吉田 有希
社会福祉法人明桜会 サポートセンター曙	松本 麻由
特定非営利活動法人こぐまくらぶ 明石事業所	美喜 美和
国立大学法人 神戸大学附属特別支援学校	黒川 陽司
社会福祉法人明石市社会福祉協議会 おおくぼ総合支援センター	石田 香緒里
社会福祉法人あかりの家 東播磨圏域コーディネーター	濱口 直哉

## 5. しごと部会

### (1) 令和4年度委員体制（敬称略）

団体・事業所等名	氏名
社会福祉法人明桜会 サポートセンター曙	山崎 正幸
医療法人東峰会 関西青少年サナトリウム	馬場 麻里子
社会福祉法人明桜会 明石市障害者就労・生活支援センターあくと	渡邊 貴美
特定非営利活動法人こぐまくらぶ こぐまくらぶ明石ウエスト	山田 紀子
特定非営利活動法人マーチング みちくさ本舗	長尾 拓也
社会福祉法人明桜会 サポートセンター貴和	北代 淳
株式会社ハンズ 就労移行支援ハンズ明石	達川 徳鏑
社会福祉法人すいせい 一体型 JOBridge・CAST ビジネスアカデミー・EnTry	大谷 晃司
兵庫県立いなみ野特別支援学校	中西 園枝
明石市福祉局生活支援室障害福祉課	神納 真弓
社会福祉法人明石市社会福祉協議会 明石市基幹相談支援センター	南部 丈晴

### (2) 総括（山崎部会長）

ワーキング活動や専門部会の会議は、コロナウイルス感染症の対策と状況を考えながら、オンラインと対面での開催としました。ワーキング活動としては、「チャレンジウィーク」、「B 型事業所ネットワーク」のコロナ禍での事業運営や生産活動を話題とし、各事業所が抱えている課題の集約と今後の活動を考える場としました。

B 型事業所ネットワークでは、利用者確保・工賃保障・作業量の確保がテーマになり、チャレンジウィークでは、企業とのオリエンテーションや振返りの場に相談支援専門員も同席する仕組みや明石市、就労支援に携わる支援機関にチャレンジウィークの活動を周知する方法などについて、意見交換を行いました。利用者の望む生活の実現に繋げるために、B 型事業所や相談支援事業周所で作成する「サービス等利用計画」や「個別支援計画」に反映させる仕組みは可能かなどのお話合いも提示させていただきました。今後、しごと部会としては支援学校の在籍者ご家族に向けて就労に関する情報収集の手段と伝達方法やサポート体制の構築も課題検討をしていきたいと考えています。将来を考えるうえで、「はたらくこと」に関する情報をいつでも得ることができることを意識し、現状と課題を共有しつつ、ご家族に必要な情報を提供し、安心を得られるような仕組み、活動を検討します。

今後もしごと部会では「めざせ就労!」「住みなれた町で働きくらす」ことを部会全体として、取り組めるように模索していきたいと考えています。

### (3) 活動目的

“明石市障害者計画”及び“明石市障害福祉計画・明石市障害児福祉計画”の基本理念等を踏まえて、「目指せ就労！」をスローガンに、「“その人にあった働き方”を選択できる社会」の実現を目指します。

### (4) 活動方針

働くことに関することをテーマとして、①支援体制に関する課題、②既存の制度やサービスだけでは解決が困難な事象、③繰り返し起こっている類似の問題等を整理・集約し、協議・検討するとともに、優先的に解決すべき課題を選定したうえで運営会議へ報告します。

### (5) 本会議（全3回）

	開催日	会場	参加者
第1回	9月8日（木）	オンライン	12名
	・令和3年度専門部会等活動報告ならびに令和4年度しごと部会活動計画（案）およびしごと部会委員名簿（案）について全会一致で承認した。 ・令和4年度運営会議での提言事項について検討した。		
第2回	10月7日（金）	オンライン・対面	9名
	<b>1. 各ワーキンググループの役割と担当者の振り分け</b> ・B型事業所ネットワーク（長尾、北代、神納） ・チャレンジウィーク（達川、大谷、渡邊、山田、中西、神納） ・その他の活動（達川、大谷、中西、山田、北代、神納） <b>2. 運営会議での提言事項の検討</b> ・就労のステップアップとして、B型から他事業所や他の働き方があること、多様な選択肢が必要なことを共有する。特別支援学校に在籍している生徒の家族がステップアップするための事業所の情報を知らない。B型事業所からのステップアップも同様に職員が次の段階をイメージににくい。他事業所の活動・取り組みを知らない。事業所間同志の繋がりもないなどの課題がある。また、企業に対しても事業所のことを知ってもらえば、就労に繋がり易いのではないかと提案する。		
第3回	3月20日（月）	市立総合福祉センター	10名
	<b>1. 活動報告（B型事業所ネットワーク）</b> ・2回実施。顔合わせる機会を大事にしようということで座談会を実施。コロナ禍の事業運営・作業の課題を共有しているが、どのように進めていくか。参加しやすい身近な取り組みをということで事例検討。B型のマッピングについて、支援者が情報を知っていきたい。 ・事例検討に関しては、ガチガチしたものではなく。自然な形で意見やアイデアがでるような取り組み。事業所の特徴を出していただくだけではなく弱いところもという意見も印象的。カタログ作りも今後早めに作っていく。奇数月にプロジェクト的な取り組みを検討。 ・B型マップやカタログも地域のつながりを持っているとなれば、地域との共有が		

できたら安心感もあるのかもしれない。高校販売（きずな）が活発に動いていて良かった。

**（就労移行 WEB 見学会）**

情報を発信していこうとスローガンのもと、移行支援の情報発信しようと思った。初めての試みにしては比較的良かったのではないかと。就労移行の参加率も高かった。目的は果たせたが、見学会という名目だったが…。録画しておいて後日配信して HP などから観られるようになれば良い。計画相談の方も参加いただいて評価いただいた。就労移行も他の福祉サービスとの連携で課題が見えてきた。他事業所見る機会は、出ない職員は未知の世界なので大成功だった。

- ・ B 型からのステップの主旨だったが、神戸市特別支援・東播磨・神大・明石養護、高校の通級（県 2 3 校）手帳あり・グレーゾーンで卒業後 B 型へも珍しくない。県農・錦城、兵庫大学の障害者支援も参加。会が進めばと思うが、学校に適した日であったが。校内でも 7 名ほど来てもらって、クラスの生徒のため・中学部の先生も来られた。授業の教材として利用できれば良い。

2) チャレンジウィーク

- ・ B 型事業所の利用者のステップを確認しながら、図式している。無理ない活動になれば良い。企業開拓よりも今ある協力事業所をチャレンジしたいと手が挙がった段階で調整できたら良い。

- ・ マニュアルがあれば無理なくやっていけるのではないかと。人が変わっても継続していけるような形にできれば良い。

- ・ 施策化に向けて継続できるように、企業開拓と利用者募集できたら良い。振り返りには相談支援専門員に変わり、当事者、支援者、企業が繋がっていくようなチャレンジウィークになれば底上げにもなるかと思っている。

- ・ 共生社会協力店みたいなステッカーやその企業とは就労や実習の話ができるのも良い。

**2. 令和 5 年度の活動**

- ・ B 型事業所ネットワーク（定例会とステップアップができる活動）、チャレンジウィークの活動に取り組んでいく。

**（6）ワーキング**

**① B 型事業所ネットワーク（全 3 回）**

就労継続支援 B 型事業所間のつながりを作るとともに、利用者への支援や事業運営に関する現状と課題の整理・集約に取り組んだほか、工賃保障の一助として、「きずな（明石高校/9 事業所・明石清水高校/8 事業所・明石西高校/7 事業所）」や「つながるマルシェ（コープこうべ（朝霧・大蔵谷・西明石・大久保・魚住）/11 事業所 64 回）」での販売活動に取り組みました。

	開催日	会場	参加者
第 1 回	11 月 9 日	市立総合福祉センター	6 名
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特徴、強みを共有する場が無くなっている。オンラインで継続するのであれば、動画でオンライン見学ができないか。作業のシェアができないか。</li> <li>・ 販売活動が見えにくい。どこで何をやっているか分からない。</li> </ul>		

	12月8日(木)	市立総合福祉センター	13名
	<p><b>1. 報告事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援協議会しごと部会の位置づけと、ワーキンググループの説明</li> <li>・各事業所から報告(特色と事業所として感じる課題)</li> </ul> <p><b>2. 検討事項/今後、検討していきたいこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間内での研修・勉強会、ケース検討(通所の安定・利用者同士のいざこざ)</li> <li>・工賃保障、内職作業・仕事のシェア、企業開拓(いかに良い企業を開拓するか)</li> <li>・B型事業所同志の連携(大量発注の際、普段から繋がりがあると他事業所に依頼し易い)、利用者の確保</li> </ul> <p><b>3. 今後の会議の持ち方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者にとってはB型の数が増え、選択肢が広がっている。そのため、B型事業所同士のつながりをより密にしていきたい。</li> </ul> <p><b>4. 提案事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B型事業所の一覧、マッピング作成を進めていく。事業所間の情報を知るための材料になる。企業にとっても有益な情報源になれば良い。B型の利用希望者の選択肢となる。職員同士、事業所間も繋がる機会になる。</li> <li>・就労移行支援事業所の見学会の開催についても賛同を得る。</li> </ul>		
第3回	2月22日(水)	市立総合福祉センター	18名
	<p><b>1. 意見交換(事業所での困りごと)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校卒で、ずっと同じ事業所を希望する保護者。本人は次のステップに行きたい。意見が解離しているケースがある。</li> <li>・利用者間のトラブルがあり、言葉で説明しても理解が追いつかない。他事業所ではどのように支援しているかを聴きたい。障害種別の違いからトラブルに発展しているケース。</li> <li>・工賃向上について。いかに工賃を上げていくか。</li> <li>・レクレーションの話。コロナでどんなことをしているか</li> <li>・本人と事業所の方針が合っていない。</li> <li>・就労移行からB型の繋がった方でもう一度ステップアップに繋げていきたいが、タイミングが分からない。</li> </ul> <p><b>2. 事業所マップ・カタログ作成について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いを知る上で必要な情報がほしい。家族や相談員にも分かりやすい情報を考えていく。</li> <li>・対象者、事業所の写真や就労実績、体験の有無、環境面、送迎の可否、事業所の強みや弱み(例えばハード面)、URL、タイムスケジュールの掲載があれば良い。作成に当たっては、コアメンバーを募る。</li> </ul> <p><b>3. 今後の開催頻度等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隔月ごとの開催とする。事例検討や研修などについては、定例会の枠で実施。</li> </ul>		

## ② 就労移行 WEB 見学会（プロジェクト）（全5回）

昨年、実施した就労継続支援 B 型事業所利用者の就労に関する意向調査から就労のステップアップを考えている利用者があることが明らかとなった。本結果を踏まえて、就労に関する多様な選択肢の提供や他事業所の情報収集と周知の方法について検討を重ねるとともに、就労移行 WEB 見学会を試行的に実施した。

	開催日	会場	参加者
第1回	11月16日（水）	総合福祉センター	7名
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労のステップを踏んでいるケースの共有が必要ではないか。</li> <li>・視覚的に就労の情報が共有できるもの。本人・家族と事業所が繋がるだけでなく、事業所も繋がれる情報ツールになればよい。（3か年計画）</li> <li>・本人と家族と一緒に作っていく就労ノートがあったら良いのではないか。ノートの中身は、就労アセスメント、課題、目標設定、指標など。</li> <li>・就労移行の見学会を企画するのはどうか。</li> </ul>		
第2回	12月20日（火）	総合福祉センター	6名
	<p>就労移行 WEB 見学会の内容等を検討した。就労継続支援 B 型事業所からのステップアップを考えている利用者もしくは家族、当該事業所の職員または相談支援専門員が就労移行支援について知る機会を提供することで、本人・家族への必要な情報の提供、就労に関する知識の獲得、事業所間の連携体制の構築を図ることを目的として開催することを確認した。</p>		
第3回	1月26日（木）	総合福祉センター	7名
	<p>就労移行 WEB 見学会の当日の流れと案内文の内容および事前に質問を取りまとめておくこと、今回は支援者のみを対象とすることを確認した。</p>		
第4回	2月20日（月）21日（火）	オンライン	42名
	<p>市内の就労移行支援事業所8事業所が参加した。1事業所15分と短い時間であったが、事業所の特徴や日々の活動をパワーポイントと動画などを工夫し、分かり易く説明いただいた。参加者は42名で、参加者の属性は、B型が15名、就労移行が13名、教育機関7名、相談支援が4名であった。</p>		
第5回	3月16日（木）	総合福祉センター	6名
	<p><b>1. 就労移行 WEB 見学会の振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立高校（定時制）や大学からの参加もあり、就労移行支援のことを幅広く知ってもらえる機会となった。就労移行支援事業所同士、お互いの取り組みを知る機会にもなった。</li> <li>・ステップアップの導入としては良いスタートが切れた。WEB 開催だから参加しやすかったのはメリット。一定の目的は達成したと言える。</li> <li>・アンケートからは、就労のステップのモデルケースが知りたい。一步踏み込んだ具体的な支援の流れを知りたいというニーズを把握した。体験はハードルが高いが、見学であれば参加はしやすいかもしれない。</li> <li>・ウェビナーのように後日、視聴できるような仕組みがあっても良いと思う。各事業所に一事例入れてもらうなどしても良い。作る側として自由度が高かったので掲載内容の統一などができれば良い。</li> <li>・それぞれの事業所のホームページに行ったら、今回のような資料がもらえるのかという問い合わせがあった。協議会のホームページに掲載できないか。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学会終了後、就労継続支援B型事業所から就労移行支援事業所への問い合わせはない。</li> </ul> <p><b>2. 今後の活動について（意見交換）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労移行事業所はホームページから随時見学できるようにしているが、個人が見学申込をするのは、ハードルが高いのではないか。協議会として、取りまとめがあれば、参加はしやすいのではないか。時期や方法（午前・午後 各2事業所ずつ）や対象者（学校の先生や支援者）などを検討しないといけない。</li> </ul>
--	---

### ③ チャレンジウィーク（プロジェクト）（全2回）

就労継続支援 B 型事業所の利用者を対象としたチャレンジウィーク（市内企業と協力した「雇用を前提としない企業体験実習」）の再開に向けた協議に努めた。

	開催日	会場	参加者
第 1 回	2月6日	総合福祉センター	6名
	<p><b>1. 課題共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力企業数と比べて申込者が少なくバランスが取れていない。就労継続支援B型事業所への周知方法も課題である。</li> <li>・相談支援事業所の参加がない。</li> <li>・持続可能な活動（担当が変わっても誰でもできる活動）になっていない。3週間程度で企業開拓、実習申込から振り返りまで実施するので、その間、コアメンバーの負担が大きい。</li> <li>・特例子会社は受け入れやすいのではないか。</li> <li>・これまで参加した利用者から次もチャレンジしたいという声が挙がっている。</li> <li>・家族の理解も必要ではないか。</li> </ul> <p><b>2. 今後の活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的に就労を考えている就労継続支援B型事業所利用者を対象とする。</li> <li>・コアメンバーの負担を軽減する上でも運営側のメンバーを増やす。</li> <li>・活動計画を考える前に利用者のニーズを聴く。</li> <li>・年中開催できる仕組みができれば、新しいメンバーにも活動の流れを体感してもらいやすくなり、課題の軽減や労力の分散ができる</li> </ul> <p><b>3. 今後の活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B型事業所ネットワークと相談支援連絡会で活動を周知する。</li> <li>・実習先開拓を普段から関わりある企業に絞り込む。（例：マルアイ、コープ、マクドナルド、ぐらな一と、リュミエール、永楽堂など）</li> <li>・令和5年度は下半期（9月以降）の開催を検討する。1カ月1事業所のペースで検討する。申込の流れと必要書類を見直す。</li> </ul>		
第 2 回	3月15日（水）	総合福祉センター	6名
<p><b>1. 活動方針の確認</b></p> <p>就労のステップアップを考えているB型事業所の利用者を対象に雇用を前提としない企業見学・体験実習の機会を確保する。同時に福祉事業所と企業が繋がりを保ち、相互理解を深める機会とする。</p>			

## 2. 検討事項

### (1) 活動計画の作成

- ・マンパワー不足の解消に向けて、新たなメンバーを招集する。特に相談支援事業所の参加を促す。
- ・申込から活動終了までの流れを把握しやすくする。
- ・コアメンバーが理解しやすい活動とするため参加事業所数を4事業所程度に制限する。
- ・上半期は企業登録、就労継続支援B型事業所および相談支援事業所への周知と取りまとめならびに説明会を実施する。下半期はチャレンジウィークの開催、活動報告会を実施する。

### (2) 活動の周知方法

- ・令和5年7月に事業説明会（B型事業所が対象）を開催（予定）。

## 3. 今後の活動予定・方針

- ・毎月第3水曜日の10時からコアメンバーにて会議を開催する。

(以下、余白)



## 6. こども部会

### (1) 令和4年度委員体制（敬称略）

団体・事業所等名	氏名
社会福祉法人三田谷治療教育院 明石市立ゆりかご園	飯塚 由美子
波の家大久保駅前発達支援センター	中尾 翠
社会福祉法人三田谷治療教育院 明石市立あおぞら園・きらきら	浅原 奈緒子
合資会社みち デイサービス太陽・デイサービス太陽の子	木村 直樹
株式会社セラピット 児童発達支援・放課後等デイサービス リハ・リハキッズ PowersII	西島 聡
明石市こども局こども育成室	津村 基子
明石市立発達支援センター	福岡 彩美
明石市教育委員会事務局学校教育課	中西 弘一
明石市福祉局生活支援室障害福祉課	加藤 彩子
社会福祉法人明石市社会福祉協議会 明石市基幹相談支援センター	藤原 桂子

### (2) 総括（飯塚部会長報告）

令和4年度の活動としましては、やはり新型コロナウイルス感染症の影響により、こども部会の主な活動である通所ワーキングの会議に制限がかかり、コロナ前には毎月実施していた会議も2か月ごとになり会議も対面ではなくオンラインを利用した内容になりました。その為、参加人数も半数ほどでした。

しかしながら、各事業所のご意見を反映するために、2名の方に参加者のご意見を代表して進行役に伝えて頂き、ワーキングが事業所の方の立場に立った内容で進むよう配慮してきました。

最終3月の会議では、2年ぶりの対面を実施したところ、参加人数も以前に戻り久しぶりに各事業所の方々と対面で情報共有することができました。

また、大きな成果の一つとしましては、こども部会が今年度進めてきた「障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信プロジェクト」もメンバーの9名が、話し合いを重ね、各事業所に足を運び、事業所を利用している子どもの保護者からアンケートを記入して頂きました。利用者の声を反映したことにより、「事業所の情報を適時的確に発信することの大切さ」が表面化されました。ぜひ、何らかの形が構築されることを願います。

もう一つの1万人メッセージプロジェクトは、コロナ禍での制限が大きかったですが、「啓発」の目的を伝えていくことで、ご協力を頂くことができました。現在2,296名に達しています。来年度はさらに積極的に発信していきたいと思っております。

### (3) 活動目的

“明石市障害者計画”及び“明石市障害福祉計画・明石市障害児福祉計画”の基本理念を踏まえて、「すべての子どもたちが幸せに暮らすことができる明石・ともに育つ明石」の実現を目指します。

### (4) 活動方針

「さまざまな障がいの理解」、「ライフステージ」を意識し、重層的な支援をめざし、教育機関や医療機関との連携をすすめていく中で、①支援体制に関する課題、②既存の制度やサービスだけでは解決が困難な事象、③繰り返し起こっている類似の問題等を整理・集約し、協議・検討するとともに、優先的に解決すべき課題を選定したうえで運営会議へ報告します。

### (5) 本会議（全3回）

	開催日	会場	参加者
第1回	9月15日（木）	オンライン	10名
	<b>1. 報告事項</b> ・令和3年度専門部会等活動報告ならびに令和4年度こども部会活動計画（案）およびこども部会委員名簿（案）について全会一致で承認した。 <b>2. 検討事項</b> ・児童通所連絡会ワンポイントレッスンは、今年度、委員を中心に講義を行う。1月3月頃には対面での開催を検討する。 ・情報発信プロジェクトは、アンケートの結果から、何らかの結果や情報発信の方向性を見出す。 ・児童通所サービス等ガイドブック更新について、掲載順は、地域別で掲載が望ましい。		
第2回	12月13日（火）	市立総合福祉センター	10名
	<b>1. 児童通所サービス等事業所連絡会について</b> <b>(1) 1月の連絡会ワンポイントレッスン（こども育成室）の内容について</b> ・どのような相談をこども育成室が受け付けているのか。育成室の業務内容について聞きたい。 ・幼稚園の加配や通級について詳しく聞きたい。 ・育成室と事業所の連携の仕方について。 ・保育園での障害児の入園についてどのようにすればいいのか聞きたい。 <b>(2) 3月の連絡会について</b> ・中西委員（教育委員会）より就学前相談についての講義を予定している。 ・対面形式でアワーズホール会議室にて開催予定。 <b>(3) 来年度の連絡会運営について</b> ・委員や参加者が企画運営に関わることで意見は吸い上げやすくなる。 ・コロナ禍以前は、連絡会に50人以上参加者がおり、そこで出た意見をもとにプロジェクト（視察・ガイドブック等）を作ってきたが、オンライン開催になり意見が出にくくなっている印象がある。		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信プロジェクトで事業所にアンケートを配布した際、「こども部会が何をしてくれるか分からない」との意見が聞かれたが、直接伺い説明したことで連絡会へ参加してくれた事業所もある。</li> <li>・対面での連絡会のメリットは連絡会終了後に名刺交換等他事業所の職員との交流もできること。</li> <li>・子どもから大人への支援の移行についてもワンポイントレッスンで取り上げてはどうか。</li> </ul> <p><b>2. 障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信プロジェクトについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より提言案を報告した。</li> </ul> <p><b>3. その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市主催の説明会をしてほしいとの声を受けて障害福祉課が研修を開催した。内容について、どのようなものが求められているのか意見があれば次回の研修に活かしたい。</li> <li>・通学時の移動支援についての相談を受けることが多い。</li> <li>・医ケアや重心の支援をしている事業所の参加を促したい。</li> <li>・不登校やフリースクールについて関心がある。</li> <li>・幼稚園、保育園で支援が必要な子どもが増えている。</li> <li>・サポートノートの研修は定期的に連絡会で行うことで振り返りができる。</li> </ul>			
第3回	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="width:33%;">2月14日(火)</td> <td style="width:33%;">市立総合福祉センター</td> <td style="width:33%;">9名</td> </tr> </table>	2月14日(火)	市立総合福祉センター	9名
	2月14日(火)	市立総合福祉センター	9名	
<p><b>1. 障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信プロジェクトについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在作成中の報告書をもとに、4月の児童通所連絡会で事業所向けの報告会を開催する。</li> <li>・令和5年度は、部会（ワーキンググループ）にて、システムや紙媒体での情報発信の方法や、手段、更新を分担し、保護者の意向に沿った情報発信を目指す。</li> </ul> <p><b>2. 児童通所サービス等事業所連絡会について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は毎月・対面で開催する。</li> <li>・ワンポイントレッスンは継続していく。</li> </ul> <p><b>3. 令和5年度の活動について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童通所サービス等事業所連絡会（ワーキング）</li> <li>・情報発信ワーキング（仮称）（ワーキング）</li> <li>・1万人メッセージプロジェクト（啓発プロジェクト）</li> <li>・イベントプロジェクト（仮称）（啓発プロジェクト）を主な活動とする。</li> </ul>				

**(6) ワーキング**

**① 児童通所等サービス事業者連絡会（全6回）**

明石市内をサービス提供地域とする児童通所サービス事業所及び市内指定児童相談支援事業所、明石在住の子どもが通学する特別支援学校等の支援者のつながりを作るとともに、相互に連携し、知恵を出し合い、知識の習得・技術の向上に努めました。

	開催日	会場	参加者
第1回	5月17日(火)	オンライン	29名
	<b>1. 情報共有・意見交換(グループ討議)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止委員会・身体拘束等の適正化・新型コロナウイルス感染拡大防止策について各事業所の取り組みについて話し合った。</li> <li>・職員の対応が身体拘束に当たるのかを検討委員で話し合い、必要と思われる場合は同意書を作成し個別支援計画にも反映する。</li> <li>・どこからが身体拘束に当たるのかが分からない。</li> <li>・法人全体で委員会を設置し、研修を行っている。</li> <li>・普段から保護者との関係性を構築することで、他害がある児童について、寄り添う形で安全・命を守るためとして保護者に説明をすると同意が得やすい。</li> <li>・コロナ対策として、消毒・手洗い、個別療育を増やす、送迎車内での会話を控える等の対策をしている。</li> </ul>		
第2回	7月12日(火)	オンライン	28名
	<b>1. ワンポイントレッスン</b> 「就学前健康診断について」 明石市市教育委員会事務局 学校教育課 中西 弘一 氏 <b>2. 情報共有・意見交換</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報発信プロジェクト」について事務局より進捗を報告した。</li> <li>・児童通所サービス利用までの流れについて、障害福祉課より新しいリーフレットに沿って説明があった。</li> <li>・コロナ感染時の休所時の経験を経て、災害時の対応や併用先の事業所との連携だけでなく、地域での事業所同士の助け合いや連携が必要と感じた。</li> <li>・情報発信プロジェクトのアンケートは、保護者からも最新の情報が欲しいのとの声を聞いている。アンケートの結果を踏まえて、今後どのような形になるのか期待している。</li> </ul>		
第3回	9月13日(火)	オンライン	29名
	<b>1. ワンポイントレッスン</b> 「高次脳機能障害相談窓口について～18歳までの事例と支援について～」 総合リハ高次脳機能障害相談窓口 山本 洋敬 氏 / 村田 美香子 氏 <b>2. 情報共有・意見交換</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報発信プロジェクト」アンケートについて事務局より進捗を報告した。</li> <li>・「加算」、「代替支援」について、個別加算、集団加算の取り方について知りたいとの声があった。代替支援として、電話・オンライン支援、制作物や動画の事前準備を行っている事業所あり。</li> </ul>		
第4回	11月15日(火)	オンライン	30名
	<b>1. ワンポイントレッスン</b> 「サポートノートの活用について」 明石市立発達支援センター 福岡 彩美 氏 <b>2. 情報・意見交換</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所の特色や支援内容について参加した全ての事業所が自事業所の支援内</li> </ul>		

	容を発表した。 ・世帯で見守りが必要なこどもの支援について、関係機関と連携をしながら支援をしているとの話もあった。		
第5回	1月17日(火)	オンライン	27名
	<b>1. ワンポイントレッスン</b> 「こども育成室の役割及び幼稚園・保育園・こども園の支援について」 明石市こども局こども育成室 津村 基子 氏  <b>2. 情報・意見交換</b> （各事業所の防災の取り組みやBCPの作成について） ・BCPについての研修会は開催されているが、児童系サービスに特化した内容の研修を受講したい。 ・義務化される前から避難訓練を年に2回開催している。書類上で、どの程度どこまで作成していいのか手探りな状況である。 ・法人全体で取りBCPを作成している。 ・コロナ感染予防については、委員会を設置し最新情報を法人内各事業所に情報共有している。委員会の頻度は必要に応じて変化する。 ・市や県の意見を聞きながら委員会を立ち上げマニュアルを作成している。今後、連絡会で事例等出して勉強会ができればいい。 ・保護者への説明・アナウンスに至っていない現状である。 ・支援学校では防災計画を立てており、担当者が変わっても組織的に対応できるようにしている。		
第6回	3月14日(火)	市民会館会議室	46名
	<b>1. ワンポイントレッスン</b> 「明石市の就学前相談について」 明石市 教育委員会 学校教育課 中西 弘一 氏  <b>2. 情報・意見交換</b> ・各事業所より、研修や新規事業開設について情報提供があった。 ・来年度の連絡会については、毎月対面での開催を再開していく。連絡会は11時半までで閉会し、12時までの時間は、自由に各事業所が情報共有や顔を知る機会とする。		

## ② 10,000人メッセージプロジェクト

「障がいがあってもなくても、すべてのこどもたちがしあわせに暮らせる社会の実現」に向け、10,000人からビデオメッセージを集めることを目標にしたプロジェクトです。随時ビデオメッセージの募集し、イベント等でも呼びかけ、啓発活動にと勤めました。年度末時点で、2,296名からメッセージを頂いています。

## ③ 障害福祉サービスの提供内容に関する情報発信プロジェクト

利用者（保護者）が必要としている障害福祉サービスの事業内容に関する情報について、量的または質的な調査を行い、市域全体で取り組むべき障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信の基本的な方向性と手段（方法）を取りまとめて、全体会にて報告

しました。詳細は、「障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信プロジェクト報告書」を参照ください。

(以下、余白)

# リポ一ト

# 令和4年度 明石市地域自立支援協議会

## くらし部会 リポート Vol.45 令和4年10月17日

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター1階）

電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 [akashi\\_jiritsushien@yahoo.co.jp](mailto:akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp)

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

みなさまこんにちは！「ヘルパーのつどい」です。

9月26日に開催致しました、介護技術リスクマネジメント研修～自殺対策 ゲートキーパー研修～についてリポート致します。研修では、NPO 法人 ゲートキーパー支援センターの竹内志津香氏、香川裕美氏をお招きし、講義と演習を行いました。

### 講義で学んだポイント



- ・自殺の要因（健康・学校や職場・お金・家庭・その他）には様々なものがあるが、これらの要因だけではなく、**孤独・孤立であること**が大きく影響し、自殺のリスクが高まる。
- ・危機介入のための4つのステップ（サインに気づく・声をかけ、話を聴く・危険性をはかる・必要な支援につないで見守る）を実行する。
- ・声の掛け方として、相手の悩みを軽視する言葉、感情的な言葉、同情、安易な励まし、否定的な言葉、すぐに自分の話になることを避ける様、注意する。
- ・対人支援においては、共感疲労があること、支援者自身の健康にも目を向けることが必要。



### 受講者の感想

・このような研修を受ける機会はあまりなく、また、自殺をほのめかす利用者に接することはほとんどなかったが、このような場面があった時には、今回の講義やロールプレイを参考にしたいです。

・自殺を口にする利用者様が、本当にそう考えて言っているのかそうでないかの見極めは難しい。しかし、支援者の声掛け一つで、その後の展開が変わる可能性があるので気が抜けないと感じる。今回は zoom での開催となり残念でしたが、講義・演習を通じて真新しさというよりも、振り返りの良い機会をいただきました。利用者様からの自殺をほのめかすような言動は、責任者よりも現場に入るヘルパーがまず耳にする機会も多く、常に気を張っていなければならないヘルパーに対して講義内容の共有と何よりメンタルヘルスケアの重要性を改めて感じました。

ヘルパーのつどいは、年3回程度、対面またはオンラインで集まり、ヘルパー業務に関する意見や情報交換、研修などを行っています。明石市内のヘルパー事業所の方はどなたでもご参加いただけます♪  
次回のつどいは令和5年1月の予定です！





# 令和4年度 明石市地域自立支援協議会 くらし部会 リポート Vol.46 令和4年11月15日

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター1階）

電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 [akashi\\_jiritsushien@yahoo.co.jp](mailto:akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp)

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

10月29日に大久保小学校地区社会福祉協議会にて実施した、精神障がいに関する福祉学習「一から学ぶところの病～自分や大切な人のために～」について報告します。

この活動は、昨年度、兵庫県立大学並びに兵庫大学の皆様のご協力を得て、精神障がいについて学ぶ教材を開発し、この度記念すべき第1回目を迎えたものです。当日は25名が参加されました。前半の講義はくらし部会委員の北代さん（関西青少年サナトリウム）が担当し、主な精神疾患に関する基礎的な知識を学んでいただきました。後半の講義・演習は兵庫県立大学看護学部の川田先生の進行と学生の皆様のサポートにより、ストレスとのつきあい方や大切な人との助け合いについて、グループトークを中心に進めていただきました。参加者は講義に熱心に耳を傾け、活発な意見交換をされていました。また、「SOSを出している人に、少しでも早く気づいてあげられるようにしたい」、「この病になる方の割合が高いことに驚いた」、「自分のストレス解消法を知っておくことが大切だと思った」、「みんなで話し合うことが出来て有意義だった」、「相手の気持ちを考えて対話することが大切だと思った」などの感想をお聞きし、それぞれに自分や身近な人のメンタルヘルスについて考える機会になったのではないかと思います。プロジェクトメンバー一同、無事に第1回目を終えることができ、大変嬉しく思うと同時に、今回の実施で気づいたことを踏まえ、さらに良い内容にしていきたいと思っています。

## 当日の様子



# 令和4年度 明石市地域自立支援協議会 くらし部会 リポート Vol.47 令和5年1月13日

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター1階）

電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 [akashi\\_jiritsushien@yahoo.co.jp](mailto:akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp)

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

2023年が始まりました！

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます

さて、昨年11月24日に「すまいの会」を開催しましたので報告します。

すまいの会では、障がいのある人の“すまい”について、様々な角度から協議しています。例えば、一般的なライフステージ（進学、就職、結婚、育児など）による暮らし（すまいの場）の

変化と、障がい者の暮らしの現状には差異があり、どうすればその差異を小さくできるだろうかといったことや、グループホーム等への入居に関して、利用者本人が主体的に住まいの場を選べるような支援ができているだろうか、家族や支援者が決めてしまっていないだろうかといったことです。

それらの協議を経て、障がいがあっても自分のすまいを自分で選べるように、いろいろな暮らし方があることを知ってもらう機会が必要ではないか、例えば必要に迫られてからではなく、気軽にグループホームを見学できる仕組みを作ること、さらに、グループホームや一人暮らしなどの体験入居の機会を作れば、将来のすまいについて、より具体的にイメージすることができ、自分に合った選択ができるのではないかと意見が出ています。また、利用者本人や家族にグループホームをより広く知ってもらうことはもちろん、昨年8月に国連による審査と勧告のあった障害者権利条約も踏まえて、障がい者のすまいや暮らし方に

関する自由な権利についても、周知活動が必要ではないかとの意見も出ています。今後はすまいの会として、市内のグループホームや入所施設職員のネットワークづくりとは別に、周知活動を一緒にする仲間を増やしていきたいと考えています。このテーマに関心がある方であれば、所属や職種は問いませんので、ぜひご参加ください。メンバー一同お待ちしております！



# 令和4年度 明石市地域自立支援協議会

## くらし部会 リポート Vol.48 令和5年3月20日

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター1階）

電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 [akashi\\_jiritsushien@yahoo.co.jp](mailto:akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp)

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

新型コロナウイルスの蔓延により開催が遅れましたが、令和5年1月23日に生活介護事業者連絡会を開催致しました。今回は4事業所が集まり、現状報告と協議事項を話し合いましたので、報告致します。

### 【コロナ禍の活動状況】

各事業所共、試行錯誤しながら日中活動を組み立てているが、生活介護というサービスの特性上、マスクを着用できない利用者がいたり、余暇活動として外出や外食をしたくても、感染を恐れて及び腰になってしまうなど、活動を制限せざるを得ない状況がありました。また、コロナ禍の初期にクラスターが発生した事業所では、保健所から細かい指導があり、以降は過剰に反応するのではなく、ウィズコロナで冷静に対応し、徐々に日常を取り戻すことを試みたそうですが、どの事業所も活動を元に戻すには、もう少し時間が掛かる見込みです。

### 【BCP（事業継続計画）の取り組み】

災害時、感染症共に概ね策定済みの事業所や、作成済だが、緊急事態時に計画通りに機能するかという不安がある事業所、3日間の食糧備蓄をローリングストックしている事業所など様々な現状がありました。小規模事業所では、あらゆる役割を少人数で担わなければならない、優先順位や取捨選択に苦慮しているとの意見も出されました。

### 【保護者の意向と利用者へのより良い支援】

本人主体・本人中心支援が謳われる中、保護者には、加齢に伴う本人の変化を受容しづらい方や、比較的達成しやすい‘小さいゴール’に納得できない方がおられるため、どの事業所も保護者の意向をくみ取りながら、支援方針の理解を促しているようです。医療依存度の高い利用者については、福祉職だけではなく、医療職から客観的な評価や意見を伝えることも大事ではないかという意見もありました。また、利用者が事業所の提供するサービスと合っているかどうかを吟味するために、相談支援専門員やサービス担当者会議が今以上に機能する必要があるのではないかとの意見や、相談支援専門員が身体面のアセスメントに慣れていないため、身体障害に限らず全障害者に対して残存能力の評価をするための研修等の実施を検討してもよいのではないかという意見もありました。

### 【送迎の課題】

支援力やハード面により、定員以下の利用者数で運営している事業所がある中、送迎ドライバーは不規則な勤務体制で、尚且つ人員確保が難しく、特に若い世代の採用が見込めないことが共通課題として挙げられました。課題解消の策として、例えば市内を巡回する拠点送迎があれば良いのではとの意見がありましたが、運用には新たな課題も予測され、事業所運営においては人員に関する問題が多方面に影響することを実感しています。

次年度は、市内にある既存・新設の生活介護事業所に呼びかけ、ワーキンググループのメンバーを増やして、一緒に活動していきたいと思えます。



## 令和4年度（2022年度） 明石市地域自立支援協議会

## しごと部会 リポート Vol. 32 令和5年（2023年）1月17日 発行

発行元：明石市地域自立支援協議会 しごと部会 事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター 1階）  
電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 akashi\_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

しごと部会は、もっと身近で参加しやすい活動、事業所同士を繋げていくための活動を目指し、これまで通り現場の声を活動に繋げていきます。

昨年に委員編成がありメンバーが一新しました。今回は委員編成と新委員の意気込みを紹介します。

## 【しごと部会 委員編成】

任期：令和4年（2022年）8月1日～令和7年（2025年）7月31日

団体・事業所等名	氏名
社会福祉法人明桜会 サポートセンター曙	山崎 正幸
医療法人東峰会 関西青少年サナトリウム	馬場 麻里子
社会福祉法人明桜会 明石市障害者就労・生活支援センターあくと	渡邊 貴美
特定非営利活動法人こぐまくらぶ こぐまくらぶ明石ウエスト	山田 紀子
特定非営利活動法人マーチング みちくさ本舗	長尾 拓也
社会福祉法人明桜会 サポートセンター貴和	北代 淳
株式会社ハンズ 就労移行支援ハンズ明石	達川 徳鏑
社会福祉法人すいせい 一体型JOBridge・CAST ビジネスアカデミー・EnTry	大谷 晃司
兵庫県立いなみ野特別支援学校	中西 園枝
明石市福祉局生活支援室障害福祉課	神納 真弓
社会福祉法人明石市社会福祉協議会 明石市基幹相談支援センター	南部 丈晴

【しごと部会 ワーキンググループ】以下のグループでの活動を行っていきます。

チャレンジウィーク	就労継続支援 B 型事業所の利用者を対象として、市内企業と協力した「雇用を前提としない企業体験実習」の企画運営に取り組みます。
B 型事業所ネットワーク	就労継続支援 B 型事業所間のつながりを作るとともに、利用者への支援や事業運営に関する現状と課題の整理・集約に取り組みます。また、工賃保障の一助として、「きずな（明石高校・明石清水高校）」や「つながるマルシェ（コープこうべ（朝霧・大蔵谷・西明石・大久保・魚住）」での販売活動に毎月取り組むほか、新たな生産活動や販路を模索します。

活動に関するお問い合わせ先：明石市地域自立支援協議会しごと部会 事務局  
明石市基幹相談支援センター（担当：南部・二星）  
電話：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

## しごと部会 新委員のご紹介

就労移行支援ハンズ明石  
達川 委員



この度、委員を務めさせていただくことになりました、就労移行支援ハンズ明石の達川と申します。

これまでに委員を務めた経験がなく、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、皆様のご指導をいただけますと幸いです。

しごと部会が掲げる「目指せ就労！」というスローガンのもと、「“その人にあった働き方”を選択できる社会」の実現に向けて、微力ではございますが精一杯努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この度、しごと部会コアメンバーの一員となりました、社会福祉法人明桜会 サポートセンター貴和(B型事業所)の北代と申します。しごと部会は以前から関わらせて頂いており、明石地域の「はたらく」ことへの取り組みを学ばせて頂いておりました。引き続き、メンバーとして自身ができることを考えながら、楽しく・学びながら取り組みを進めていきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

サポートセンター貴和  
北代 委員



社会福祉法人すいせい  
大谷 委員



社会福祉法人すいせいの大谷と申します。現在は就労移行支援事業所の一体型 JOBridge(JOBridge、CAST、EnTry)の管理者をしております。企業からの委託作業やプログラム、企業実習を通じて実践的な訓練を行い、就労するために必要な力を身につけてもらうことが特徴です。しごと部会には初めて参加させていただきますが、これから皆様と多く繋がりを作っていききたいと思っております。これまでの経験を活かせるよう、皆様と一緒に頑張りたいと思います！よろしくお願ひいたします！

魚住町金ヶ崎にある、就労継続支援 B 型事業所みちくさ本舗の長尾と申します。このたび、市内の数ある事業所の中から、しごと部会の委員をさせていただくことになりました。「自分でいいのか？」という気持ちと、それ以上にワクワクしております。

就労サービスという分野は、福祉の中において最も社会との接点になるものだと感じております。変わり続ける世の中において、私達自身も変わっていかねばいけないところはたくさんあります。

福祉がより開かれたものとなり、垣根を越えて全ての人が手を取り合える明石というまちづくりに向けて、関係機関の皆さんと共に精一杯がんばりたいと思いますので、これからよろしくお願ひ致します。

みちくさ本舗  
長尾 委員



以上

## 令和4年度（2022年度） 明石市地域自立支援協議会

## しごと部会 リポート Vol. 33 令和5年（2023年）3月31日 発行

発行元：明石市地域自立支援協議会 しごと部会 事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター 1階）  
電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

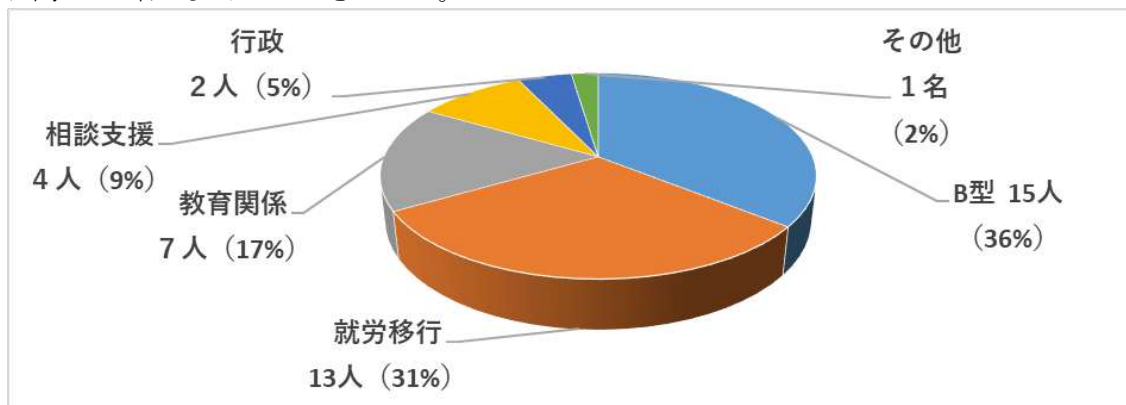
【意見投稿用アドレス】 akashi\_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています

こんにちは！今回は2月20日（月）・21日（火）に開催しました「就労移行WEB見学会」の報告をします。

今回のWEB見学会は、昨年度、実施しましたB型事業所利用者の意向調査の結果とB型事業所ネットワークの参加者より、「B型事業所からステップアップのイメージが湧かないため、取り組みがあれば参加したい」、「B型事業所以外の情報がほしい」などの声が挙がったため、まずはB型事業所の職員が正しい情報を正確に理解するこや、就労に携わる事業所の職員同士が繋がることを開催の目的としました。

対象者をB型事業所だけではなく、相談支援事業所、支援学校や高校、大学などの教育機関まで広げ、2日間で42名に参加いただきました。



明石市内にある就労移行支援事業所8事業所に、事業所の特色や雰囲気、実施しているプログラムを動画や写真を入れながらご紹介いただきました。

## 開催日時

令和5年2月20日（月）・令和5年2月21日（火）

14：00～15：30

## 参加事業所一覧

2月20日（月）

## ・サポートセンター曙こねくと

主な活動内容：  
軽作業での生産体験、施設外での作業体験、地域企業での職場実習、毎日のSST・グループワーク実施。OB会・心理士による個別面談実施

## ・ステップあっぷ西江井島

主な活動内容：  
半田・基板などの工業系内職、文具系内職、野菜の皮加工、エコラフトなどの自主製品の製作、販売、施設外就労先でのライン作業

## ・EnTry(エントリー)

主な活動内容：  
ヤマトDM便配達作業・企業実習・軽作業・PC演習（プログラミング）・グループワーク

## ・アイ・ワークス西明石

主な活動内容：  
PC訓練・各種検定試験対策・履歴書添削・面接練習・グループワーク・ビジネスマナー・模擬会社での訓練・一般企業における体験実習

2月21日（火）

## ・Small Steps なゆた

主な活動内容：  
働く力を身につける訓練（内職・所外作業）働き続ける力をつけるプログラム・仕事に就くためのプログラム（面接練習）定着支援・家族支援

## ・LITALICOワークス 明石

主な活動内容：  
就職相談・就職プログラム・就労サポート・定着支援など、就職までの道のりと就職後の人生を継続的にサポート

## ・ハンズ明石

主な活動内容：  
就労に向けたプログラム（PC、軽作業、ビジネスマナー、秘書検定、ペン字・SST、セルフケアなど）・就職活動・定着の支援

## ・ひかり明石校

主な活動内容：PC訓練・資格取得・ビジネスマナー・キャリアコンサルティング・事務系に特化

## 当日の「就労WEB見学会」の様子



参加者の皆様にアンケートを実施しましたので、ご紹介させていただきます。

### 【参加理由】

- ・選択が多い順として、「当事者（生徒）や家族への情報提供の一助のため」、「利用者のステップアップを考えたい」、「事業所を比較したい」になり、就労移行を検討している利用者が居る項目については、少ない状況でした。
- ・他にはB型からのステップアップのためにどのような視点で日々の支援をするべきかを考えたかったなどの意見もありました。

### 【今後の活動についての希望】

- ・選択が多い順として、「A型事業所職員の話を聴く」、「企業の方の話を聴く」、「企業で働いている方（当事者）の話を聴く」の順となりました。A型事業所や企業担当者の話を聴きたいとの意見が多くありました。

今回はWEB見学会になりましたが、今後、対面での就労移行支援事業所の見学や体験をしたいとの意見もありました。しごと部会委員より一言感想をいただきました。

いなみ野特別支援学校  
中西委員より

進路相談であまりかわりがなかった就労移行支援事業所も知ることができました。

こぐまくらぶウエスト  
山田委員より

それぞれの事業所の日々のプログラムなどわかりやすかったです。そして訓練後に就職でき、その後のフォローもあり、安心したサポートが出来ていることも知ることができました。

みちくさ本舗  
長尾委員より

利用者さんたちにも見ていただきましたが、就労を目指す上でのイメージができたといった声や、就労移行支援事業所がどんなサービスなのか初めて知ったという声もあり、とても有意義でした。

次年度以降の活動についてですが、アンケート結果やB型事業所ネットワークのメンバーと協議した上で活動内容を決めていきたいと考えています。

今後も、B型事業所ネットワークの活動にご協力のほどよろしくお願いいたします。



## 令和4年度 明石市地域自立支援協議会

## こども部会 リポート Vol.17 令和5年1月16日

発行元：明石市地域自立支援協議会 こども部会 事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター1階）

電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 akashi\_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

令和4年8月より3年間任期で新しい委員での専門部会がスタートしました。

部会長は引き続き飯塚由美子氏が就任され、新たに副部会長として木村直樹氏が就任されました。

皆さま、こんにちは。デイサービス太陽という放課後等デイサービスの事業所で児童発達支援管理責任者をしております、木村直樹と申します。この度、こども部会の副部会長に就任させていただきました。

児童通所サービス等事業所連絡会には平成26年11月18日（火）の第1回より参加をさせていただいております。こどもたち、そのご家族のためのよりよい支援のため、①利用者のニーズの把握、②連携、③情報共有、④課題解決、を目的に開催され、今年で9年が経過しようとしています。初めて参加させていただいたときは、門外漢なところがありましたが、参加させていただく度に学びがあり、新しい視点があり、常に成長の場でありました。自分自身の範囲だけでは学べないことがたくさんありました。学んだことを事業所に還元し、よりよい支援に努めてきました。今後もこどもたち、そのご家族様のためのよりよい支援のために、一肌ではなく諸肌を脱いで頑張りたいと考えています。

初心忘れるべからず、こどもたち、そのご家族のためのよりよい支援のため、こども部会を盛り上げていければと考えています。是非ともご賛同、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



木村 直樹 副部会長

## こども部会の委員のご紹介

（令和4年（2022年）8月1日～令和7年（2025年）7月30日）

役職	所属	氏名
部会長	明石市立ゆりかご園	飯塚 由美子
副部会長	児童デイサービス太陽	木村 直樹
委員	明石市立あおぞら園・きらきら	浅原 奈緒子
委員	波の家大久保駅前発達支援センター	中尾 翠
委員	リハリハキッズpowersⅡ	西島 聡
委員	明石市こども局 こども育成室	津村 基子
委員	明石市立発達支援センター	福岡 彩美
委員	明石市教育委員会事務局 学校教育課	中西 弘一
委員	明石市福祉局生活支援室 障害福祉課	加藤 彩子



## 令和4年度 明石市地域自立支援協議会

### こども部会 リポート Vol.18 令和5年3月28日

発行元：明石市地域自立支援協議会 こども部会 事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター1階）

電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 [akashi\\_jiritsushien@yahoo.co.jp](mailto:akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp)

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

## 障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信プロジェクトについて

令和4年度行われた「障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信プロジェクト」（以下、情報発信PT）の活動内容を、プロジェクトリーダーの明石市立あおぞら園服部副施設長より報告させていただきます。

この度、障害福祉サービスの事業内容に関する情報保障プロジェクトチームのリーダーを務めさせていただいた明石市立あおぞら園の服部です。

障害福祉サービスの事業内容に関する情報保障プロジェクトチームは、こども部会から提案した、児童通所サービスを利用する方々に必要な情報を分かりやすく、丁寧に発信することが出来ているのか？という広報のあり方について考えるために立ち上げたプロジェクトチームです。

～誰ひとり、取り残さない～をコンセプトに素晴らしいメンバーと共に、この一年、調査し、利用者の方が求める望ましい広報の仕方を追及してまいりました。調査の際は明石市内にある児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業の全事業所に協力していただき、事業所を利用している児童の保護者に1952通の調査票を配布し、868通の回収を得て、保護者の方の必要とするニーズの把握に努めることができました。

その結果、「誰ひとり、取り残さない広報」とは、常に利用者目線に立ち、わかりやすい表現方法を追及したり、情報の受け手のニーズ等を、常に分析して、絶えず改善していくことが、のぞましい情報発信のあり方であると感じました。

今後も保護者の皆様の意見にしっかりと耳を傾け、児童通所サービス事業所と明石市地域自立支援協議会がともに協力し合い、「誰ひとり、取り残さない、真にやさしいまち明石」を目指していきたいです。



服部プロジェクトリーダー



プロジェクトメンバーのみなさん

## 児童通所サービス等事業所連絡会 活動報告

### 第1回【令和4年5月17日（火）】

- ◎事業所活動報告（カレーサイズ・こころ相談研修センター）
- ◎情報共有・意見交換（グループ討議）  
虐待防止委員会・身体拘束等の適正化・新型コロナウイルス感染拡大防止策について各事業所の取り組みについて

### 第2回【令和4年7月12日（火）】

- ◎ワンポイントレッスン  
「就学前健康診断について」  
明石市教育委員会事務局 学校教育課 中西 弘一 氏
- ◎情報共有・意見交換
  - ①「障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信プロジェクト」について
  - ②「児童通所サービスまでの流れ」（障害福祉）

### 第3回【令和4年9月13日（火）】

- ◎ワンポイントレッスン  
「高次脳機能障害相談窓口について～18歳までの事例と支援について～」  
総合リハ高次脳機能障害相談窓口 山本 洋敬 氏 / 村田 美香子 氏
- ◎情報・意見交換
  - ①「障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信プロジェクト」アンケートについて
  - ②「加算」「代替支援」について

### 第4回【令和4年11月15日（火）】

- ◎ワンポイントレッスン  
「サポートノートの活用について」  
明石市立発達支援センター 福岡 彩美 氏
- ◎情報・意見交換  
各事業所の特色や支援内容について全参加事業所より、自事業所の支援内容の発表。

### 第5回【令和5年1月17日（火）】

- ◎ワンポイントレッスン  
「こども育成室の役割及び幼稚園・保育園。こども園の支援について」  
明石市こども局こども育成室 津村 基子 氏
- ◎情報・意見交換  
各事業所の防災の取り組みやBCPの作成について



### 第6回【令和5年3月14日（火）】

- ◎ワンポイントレッスン  
「明石市の就学前相談について」  
明石市 教育委員会 学校教育課 中西 弘一 氏
- ◎情報・意見交換  
新規事業所紹介等



白 紙